

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース 文系）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<p>○論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</p> <p>○語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</p> <p>○様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</p> <p>○就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</p> <p>○校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>○個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 <p>※上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『精選論理国語』『精選論理国語学習課題ノート』三省堂</p> <p>『新版高校漢字必携』第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』数研出版</p> <p>国語辞典</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	情報ネットワーク社会 疑似群衆の時代	●情報ネットワーク社会の課題を明らかにする。 ●メディアと「群衆」の新たな関係を考える。	6	・文や文章の組立て方や接続について理解を深めている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。
5	流言とメディア 夢は何語で見る？	●AI時代のメディアリテラシーについて考察する。 ●多言語社会の現実や「可能性」について考える。	8	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。
6	「対話」の言葉を作る	●「対話」の言葉のあり方考える。	8	・認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを進んで理解し、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめようとしている。
7,8	母親のための酸素マスク 「福祉社会」を考える	●いま求められるケアについて考える。 ●「福祉社会」を実現するために何が必要か、また何ができるのか自分の意見をまとめてみる。	8	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。
9	「私」消え、止まらぬ連鎖 「欲望」と資本主義	●高度消費社会における「欲望」について考える。 ●「欲望の開拓」という視点から資本主義について考察する。	8	・論証や学術的学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増し、文章の中で使い語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。
10	スポーツとナショナリズム 南の貧困／北の貧困 「文化が違う」とは何を意味するのが恐怖とは何か	●スポーツとナショナリズムの関係を考察する。 ●貧困問題を構造的に捉え直す ●「文化相対主義」を検証する。	8	・学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
11	生命との関わり	●人がなぜ「恐怖」を感じるか、自我との関わりから理解する。 ●生命と「相互主体的に関わる」とはどういうことか考える。	8	・人間、社会、自然などについて、多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・進んで理解を深め、学習課題に沿って多様な論点や異なる価値観と結び付け、自分の考えを論述しようとしている。
12	コンコルドの誤り リスク社会論	●なぜ意思決定を誤るのか、人間の思考について考える。 ●「リスク社会」の分析をとおして現代社会の諸課題を考察する。	6	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・論展開や表現方法について多面的・多角的な視点から評価し、進んで自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。
1	コンクリートの時代	●コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。	6	・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 ・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。
2	現代日本の開花 学問のすすめ	●漱石の主張を現代の視点から捉え直す。 ●「学問のすすめ」の意義を、「実学」を手がかりに考える。	6	・情報を階層化して整理する方法について理解を深め、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
			6	・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3単位
対象学年	第2学年（特別進学コース 理系）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<p>○論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</p> <p>○語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</p> <p>○様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</p> <p>○就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</p> <p>○校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>○個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 <p>※上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『精選論理国語』『精選論理国語学習課題ノート』三省堂</p> <p>『新版高校漢字必携』第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』数研出版</p> <p>国語辞典</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	情報ネットワーク社会 疑似群衆の時代	●情報ネットワーク社会の課題を明らかにする。 ●メディアと「群衆」の新たな関係を考える。	9	・文や文章の組立て方や接続について理解を深めている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。
5	流言とメディア 夢は何語で見る？	●AI時代のメディアリテラシーについて考察する。 ●多言語社会の現実や「可能性」について考える。	12	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。
6	「対話」の言葉を作る	●「対話」の言葉のあり方考える。	9	・認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを進んで理解し、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめようとしている。
7,8	母親のための酸素マスク 「福祉社会」を考える	●いま求められるケアについて考える。 ●「福祉社会」を実現するために何が必要か、また何ができるのか自分の意見をまとめてみる。	12	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 ・文章の構成や展開の仕方について理解を深め、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、調べたことを整理して自分の考えを発表しようとしている。
9	「私」消え、止まらぬ連鎖 「欲望」と資本主義	●高度消費社会における「欲望」について考える。 ●「欲望の開拓」という視点から資本主義について考察する。	12	・論証や学術的学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増し、文章の中で使い語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。
10	スポーツとナショナリズム 南の貧困／北の貧困 「文化が違う」とは何を意味するのが恐怖とは何か	●スポーツとナショナリズムの関係を考察する。 ●貧困問題を構造的に捉え直す ●「文化相対主義」を検証する。	12	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などについて、多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・進んで理解を深め、学習課題に沿って多様な論点や異なる価値観と結び付け、自分の考えを論述しようとしている。
11	生命との関わり	●人がなぜ「恐怖」を感じるか、自我との関わりから理解する。 ●生命と「相互主体的に関わる」とはどういうことか考える。	12	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・文章構成や論理展開、表現方法について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・論展開や表現方法について多面的・多角的な視点から評価し、進んで自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。
12	コンコルドの誤り リスク社会論	●なぜ意思決定を誤るのか、人間の思考について考える。 ●「リスク社会」の分析をとおして現代社会の諸課題を考察する。	9	・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 ・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・情報を階層化して整理する方法について理解を深め、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。
1	コンクリートの時代	●コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。	9	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
2	現代日本の開花 学問のすすめ	●漱石の主張を現代の視点から捉え直す。 ●「学問のすすめ」の意義を、「実学」を手がかりに考える。	9	・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3 単位
対象学年	第3学年(進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<p>○論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</p> <p>○語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</p> <p>○様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</p> <p>○就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</p> <p>○校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>○個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 <p>○上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『標準論理国語』『標準論理国語学習課題集』 第一学習社 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 国語辞典</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	「新しい博物学を」	・構成や論理の展開を的確に捉えながら文章の妥当性や信頼性を吟味する。	9	・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 ・本文を粘り強く読み、理解しようとしている。
5	「哲学的思考とは何か」	・内容を具体例や言い換えに留意しながら把握し「哲学的思考」の方法を理解する。	12	・筆者の考えに対する意見をまとめ、文章にまとめようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、情報を階層化して整理している。
	「レポートを書く(言語活動)」	・目的に応じた資料を探し、客観的な実態を取り出して整理し書いたレポートを評価するポイントを理解する。		・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫している。 ・集めた情報を適切に整理しようとしている。
6	「小論文を書く(言語活動)」	・課題文型小論文への対応のしかた、文章構成のしかた、小論文の評価のポイントを理解する。	12	・目的に応じてテーマを決め、集めた情報を妥当性や信頼性を粘り強く吟味し、書いたレポートを相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。
7	「SNSと意見の分極化」	・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し考えを深める。	12	・課題文の論展開と筆者の主張の理解、要約の方法、文章構成や論展開のしかた、自らの主張の根拠、評価するポイントを理解し、小論文を作成し、修正しようとしている。
8	「コミュニケーションの文化」	・文章構成や事例から「コミュニケーションの文化」という筆者の主張を把握する。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・段落と段落の関係から粘り強く論理の展開を捉えようとしている。
9	「クマを変えてしまおう人間」	・人間の活動と自然との関係について理解し、論点を明確化し要旨を把握する。	12	・本文中の語を用いた短文を作り、五感を磨こうとしている。 ・積極的に筆者の論展開における長手を把握し、自分なりに評価して話し合ったり、積極的に筆者の問いかけに対する意見を文章にまとめて発表しようとしていたりしている。
10	「カブトムシから考える里山と物質循環」	・人間と自然との関わりを自然の社会化という視点から考察した論理を読み解く。	12	・本文中の表現が文章全体にもたらす効果を説明しようとしている。 ・複数の文章を粘り強く読み、理解したことを比較しながら学習課題に沿ってまとめようとしている。
	「経験の教えについて」	・論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考える。		・本文を踏まえて人間と自然のあり方について考えを深め、環境問題や自分たちができることを考え発表しようとしている。
11	「僕らの時代のメディア・リテラシー」	・筆者の主張を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深める。	12	・複数の文章を比較しながらまとめようとしている。 ・段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従い本文の構成を捉え、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	「支え合うことの意味」	・抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。		・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成や筆者のメディアについての主張を捉え、その主張の理由を粘り強く説明しようとしている。
12	「科学技術は暴走しているのか」	・AIやロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえて、科学技術との向き合い方を考える。	9	・本文の内容を把握し、筆者の考えを評価しようとしている。 ・本文中の表現について、粘り強くその表現効果によりイメージされる事柄を考え、説明しようとしている。
1	「推論とは何か」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。	9	・本文を読んで、科学技術に対する考えに変化があったかどうかを振り返り、変化を比較し文章にまとめようとしている。 ・積極的に本文に出てくる言葉を用いた短文を作り、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。
2	「帰納法のワナ」	・読書の効能と意義を理解する。	9	・推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。
	「読書のしるべ」			・複数の文章を粘り強く読み、推論について理解したことを生かして積極的に誤りを指摘しようとしている。
				・教材のテーマやキーワードから積極的に興味や関心を広げ、関連する書籍を読むようとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3 単位
対象学年	第3学年(キャリアコース)		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<p>○論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</p> <p>○語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</p> <p>○様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</p> <p>○就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</p> <p>○校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>○個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 <p>○上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『標準論理国語』『標準論理国語学習課題集』 第一学習社</p> <p>『チャレンジ常用漢字』 第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』 数研出版</p> <p>国語辞典</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	「新しい博物学を」	・構成や論理の展開を的確に捉えながら文章の妥当性や信頼性を吟味する。	9	・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 ・本文を粘り強く読み、理解しようとしている。
5	「哲学的思考とは何か」	・内容を具体例や言い換えに留意しながら把握し「哲学的思考」の方法を理解する。	12	・筆者の考えに対する意見をまとめ、文章にまとめようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、情報を階層化して整理している。
	「レポートを書く(言語活動)」	・目的に応じた資料を探し、客観的な実態を取り出して整理し書いたレポートを評価するポイントを理解する。		・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫している。 ・集めた情報を適切に整理しようとしている。
6	「小論文を書く(言語活動)」	・課題文型小論文への対応のしかた、文章構成のしかた、小論文の評価のポイントを理解する。	12	・目的に応じてテーマを決め、集めた情報を妥当性や信頼性を粘り強く吟味し、書いたレポートを相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。
7	「SNSと意見の分極化」	・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し考えを深める。	12	・課題文の論展開と筆者の主張の理解、要約の方法、文章構成や論展開のしかた、自らの主張の根拠、評価するポイントを理解し、小論文を作成し、修正しようとしている。
8	「コミュニケーションの文化」	・文章構成や事例から「コミュニケーションの文化」という筆者の主張を把握する。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・段落と段落の関係から粘り強く論理の展開を捉えようとしている。
9	「クマを変えてしまおう人間」	・人間の活動と自然との関係について理解し、論点を明確化し要旨を把握する。	12	・本文中の語を用いた短文を作り、五感を磨こうとしている。 ・積極的に筆者の論展開における長を把握し、自分なりに評価して話し合ったり、積極的に筆者の問いかけに対する意見を文章にまとめて発表しようとしていたりしている。
10	「カブトムシから考える里山と物質循環」	・人間と自然との関わりを自然の社会化という視点から考察した論理を読み解く。	12	・本文中の表現が文章全体にもたらす効果を説明しようとしている。 ・複数の文章を粘り強く読み、理解したことを比較しながら学習課題に沿ってまとめようとしている。
	「経験の教えについて」	・論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考える。		・本文を踏まえて人間と自然のあり方について考えを深め、環境問題や自分たちができることを考え発表しようとしている。 ・複数の文章を比較しながらまとめようとしている。
11	「僕らの時代のメディア・リテラシー」	・筆者の主張を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深める。	12	・段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従い本文の構成を捉え、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	「支え合うことの意味」	・抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。		・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成や筆者のメディアについての主張を捉え、その主張の理由を粘り強く説明しようとしている。 ・本文の内容を把握し、筆者の考えを評価しようとしている。
12	「科学技術は暴走しているのか」	・AIやロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえて、科学技術との向き合い方を考える。	9	・本文中の表現について、粘り強くその表現効果によりイメージされる事柄を考え、説明しようとしている。
1	「推論とは何か」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。	9	・本文を読んで、科学技術に対する考えに変化があったかどうかを振り返り、変化を比較し文章にまとめようとしている。 ・積極的に本文に出てくる言葉を用いた短文を作り、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。
2	「帰納法のワナ」	・読書の効能と意義を理解する。	9	・推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。
	「読書のしるべ」			・複数の文章を粘り強く読み、推論について理解したことを生かして積極的に誤りを指摘しようとしている。 ・教材のテーマやキーワードから積極的に興味や関心を広げ、関連する書籍を読むようとしている。

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース 文系）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<p>○文学的な文章を読み、あらすじや場面の移り変わり、人物の心情変化を的確にとらえる。</p> <p>○文章を読み込むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。語句の意味、用法を的確に理解し、反復学習（小テストも含む）に取り組み語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</p> <p>○様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</p> <p>○校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>○個々の進度に合わせて、就職試験・入学試験に対応した演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 <p>※上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況・授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『精選文学国語』『精選文学国語学習課題ノート』三省堂</p> <p>『新版高校漢字必携』第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』数研出版</p> <p>国語辞典</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	「本を読む」と路に迷う	●本を読むことの「幸福」について考える	6	・言葉や人、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用に理解を深めている。
5	「想像し物語ること」	●「想像力」のはたらきを理解する	8	・内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、人間、社会、自然などのものの見方、感じ方、考え方を深めている。
6	「バル・エポック」	●一人称視点の描写に留意し、登場人物の関係を捉える	8	・言葉に想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、内容や構成、展開、描写などを的確に捉えようとしている。
6	「鞆」	●「鞆」の象徴的意味について考える	8	・言葉や人、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用に理解を深めている。
7,8	「永訣の朝」 「ギリシア的叙情詩」 「のちのおもひ」 「渡り鳥」 「俳句十五句」	●表現形式や修辞効果に着目し、詩の理解を深める ●それぞれの俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する	8	・語り手の視点や場面の設定、表現についての評価を通して、内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
9	「鞆の話」	●「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解する	8	・進んで読書の意義と効用について理解を深め、表現の特色を評価することを通して、内容を解釈しようとしている。
9	「夏の花」	●「私」が目撃した原爆投下後の光景を、時系列に即して理解する	8	・言葉の、想像や心情を豊かにする働きを理解している。
10	「『雪国』の謎」 「涙の贈り物」	●優れた翻訳について考える ●文体の特徴や表現の特色に注意して作品を読み、翻訳小説の魅力について考える	8	・我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
11	「檸檬」	●事物の描写に着目して、「私」の心情を理解する	8	・想像や心情を豊かにする言葉の働きを理解し、他作品と比較し、文体の特徴や効果について考察しようとしている。
12	「舞姫」	●手記形式に注目して、小説の内容を読み取る	6	・人間、社会、自然などに対するものの見方感じ方考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。
1	「陰影礼賛」	●それぞれの評論について文体の特色を理解する	6	・文章の解釈の多様性について考察している。
2	「無常ということ」	●それぞれの評論について文体の特色を理解する	6	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解し、解釈の多様性について考察しようとしている。
				・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
				・作品成立の背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深め、解釈の多様性について考察しようとしている。
				・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
				・内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
				・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース文系）		履修形態	必	修
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 <p>○上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。 				
教科書・教材等	『精選古典探究 古文編』『精選古典探究 漢文編』 三省堂 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 『古文単語マスター333』 数研出版 『新明説漢文』『新明説総合古典文法』 尚文出版 古語辞典・漢和辞典				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 随筆 ・「枕草子」	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・古典の文の成分や順序、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
5	物語 ・「大鏡」 ・「源氏物語」	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する	8	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
6	漢文 小話 ・「不死之薬」他 史伝	・人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	8	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
7	・「史記」他	・学習目標を確認し、考えたことを自分の言葉でまとめる。	8	・和歌の内容と文章の関係をふまえ、登場人物の心情を読み取ること。
8	古文 日記文学 ・「蜻蛉日記」 ・「紫式部日記」	・現代の文章で使われている故事成語を探し、その言葉の由来を調べて発表する。	8	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。
9	漢文 漢詩 ・「古体詩」 小説 ・「人面桃花」他 古文	・漢詩の形式・句型を学び、内容を把握する。	8	・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、中国文化との関係について理解を深めること。
10	評論 ・「俊頼髓脳」他	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえること。
11	物語 ・「源氏物語」 漢文 「三国志」の世界 思想 ・孟子、荀子 ・老子、莊子 ・列子、韓非子 ・墨子	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	8	・表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に対する心情をまとめていること。
12	古文 評論 ・「無名草子」 ・「風姿花伝」他	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	8	・和歌に描かれている情景を、表現に注意して読み、登場人物の状況をとらえる手掛かりとしている。
1	近世の文学 ・「曾根崎心中」 ・「南総里見八犬伝」他	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	6	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
2	漢文 文章 ・「師説」 ・「捕蛇者説」 ・「赤壁賦」	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・歌の表現上の特徴を理解し、現代語訳し、主題をとらえていること。
		・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	6	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
		・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	6	・語句や表現に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取っていること。
			6	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
			6	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
			6	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
			6	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
			6	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	3単位
対象学年	第2学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 <p>○上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。 				
教科書・教材等	『精選古典探究 古文編』『精選古典探究 漢文編』 三省堂 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 『古文単語マスター333』 数研出版 『新明説漢文』『新明説総合古典文法』 尚文出版 古語辞典・漢和辞典				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 随筆 ・「枕草子」	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	9	・古典の文の成分や順序、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
5	物語 ・「大鏡」 ・「源氏物語」	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する	1 2	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
6	漢文 小話 ・「不死之薬」他 史伝	・人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	1 2	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
7	・「史記」他	・学習目標を確認し、考えたことを自分の言葉でまとめる。	1 2	・和歌の内容と文章の関係をふまえ、登場人物の心情を読み取ること。
8	古文 日記文学 ・「蜻蛉日記」 ・「紫式部日記」	・現代の文章で使われている故事成語を探し、その言葉の由来を調べて発表する。	1 2	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。
9	漢文 漢詩 ・「古体詩」 小説 ・「人面桃花」他 古文	・漢詩の形式・句型を学び、内容を把握する。	1 2	・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、中国文化との関係について理解を深めること。
10	評論 ・「俊頼髓脳」他 物語 ・「源氏物語」	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	1 2	・語句や表現に注意して文脈をとらえること。
11	漢文 「三国志」の世界 思想 ・孟子、荀子 ・老子、荘子 ・列子、韓非子 ・墨子	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	1 2	・表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に対する心情をまとめていること。
12	古文 評論	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	9	・和歌に描かれている情景を、表現に注意して読み、登場人物の状況をとらえる手掛かりとしている。
1	・「無名草子」 ・「風姿花伝」他 近世の文学 ・「曾根崎心中」 ・「南総里見八犬伝」他 漢文	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	9	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
2	文章 ・「師説」 ・「捕蛇者説」 ・「赤壁賦」	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	9	・歌の表現上の特徴を理解し、現代語訳し、主題をとらえていること。
		・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。		・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
		・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。		・語句や表現に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取っていること。
				・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
				・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
				・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
				・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
				・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	3単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必	修
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>《評価の観点》</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 <p>○上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。</p> <p>《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う</p> <p>①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出 ④ノート・レポート提出</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。 				
教科書・教材等	<p>『標準古典探究』 第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』 数研出版</p> <p>古語辞典・漢和辞典</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	「御伽草子・宇治拾遺物語」	○昔話として現代まで継承された話を読み、登場人物の心境を読み取る。	9	・『御伽草子』という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えている。
5	「源氏物語・大鏡」	○長編物語・歴史物語を読んで、人物造形や心理描写、また答辞の権力者達の姿の一端に触れる。	1 2	・歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えている。
6	「蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記」	○女性による日記文学を読んで、自己の内面を書き綴った心情描写に触れる。	1 2	・学習の見通しをもって作品を読み、作者の考えや意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や表現の特色について積極的に評価しようとしている。 ・内容を的確に捉えるために、文語のきまりや敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。
7 8	「平家物語」	○登場人物の行動とそれを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。	1 2	・軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深めている。 ・和漢混交文という古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えている。
9	「無名草子・無名抄・玉勝間」	○女性作者二人を二百年後に批評した文章を読み歴史の伝承のしかたの一端に触れる。	1 2	・評論という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えている。 ・学習の見通しをもって歌論を読み、和歌に関する多様な評価基準について積極的に理解を深めようとしている。 ・学習課題に沿って作者の主張と論理を本文の叙述に即して理解し、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。
10	「不顧後患・不若人有其宝・宋人有嫁子者」	○逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開、書き手の考えや目的を捉え、内容を解釈する。	1 2	・古典の文や文章の構成・展開のしかたについて理解を深める。和歌に関する多様な考え方の一端に触れる。 ・訓読のきまりについて理解を深めている。 ・読むことを通して、古代中国の人々のものの見方・考え方を進んで理解しようとしている。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価しようとしている。
11	「鴻門之会・四面楚歌」	○登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める	1 2	・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉え、各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深めている。
12	「孟子・老子・荘子・韓非子」	○思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉え、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。	9	・訓読にきまりについて理解を深める。 ・儒家、道家、法家の古典を読み、中国古代思想について理解しようとしている。 ・積極的に文章を読み、それぞれの思想書の相違点を踏まえて理解しようとしている。
1			9	・「仁」などの象徴的な表現や、比喩や寓言といった特徴的な表現に込められた主張や国を治める方策について理解し、説明しようとしている。
2	「猫相乳・臨江之麋・売油翁」	○文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ○作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。	9	・作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・積極的に文章を読み、作者がこめた教訓や主張を、引用された話を踏まえながら進んで捉え、説明しようとしている。 ・唐宋八大家の経歴や作品を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめたり発表したりしようとしている。

教科名	国語	科目名	国語表現	単位数	3単位
対象学年	第3学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。</p> <p>(2) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。</p> <p>(3) 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>(4) 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。</p> <p>(5) 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <p>a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>b. 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p> <p>(2)評価方法は次の通りとする。</p> <p>①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 ⑤ポートフォリオ</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p> <p>④グループ活動や表現活動に積極的に参加する。</p>				
教科書・教材等	<p>国語表現 大修館書店 国語表現 基礎練習ノート 大修館書店</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	自分を見つめて	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。また、他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。	9	自分のこれまでの人生を振り返ってまとめる活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
5	将来の自分を考えよう	就きたい職業に就くために必要なことを調べ、「将来の自分」について文章にまとめる。	12	自分の将来を考えたり職業について調べてまとめたりする活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
	効果的な自己PR	事実やできごとをふまえて、自分の長所を端的に表現した、印象に残る自己PRの原稿を書く。		目的や場に応じて、自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者と話し合いながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	
6	志望理由を書こう	志望先について、調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結びつけ、説得力のある志望理由を書く。	12	目的や意図に応じて、志望先と自分に関わる事柄の中から適切な題材を集め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
7・8	自己推薦書や学修計画書を書く	志望先に提出する書類に求められていることを適切に理解する。	12	書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けしている。	
9	面接にチャレンジ	適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。質問に対して、具体的に説得力のある答え方をする。	12	面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりしている。	
10	文章を読み取って書く	資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。	12	目的や意図に応じて、読み取った文章の要旨から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
	論文を書くために	論文執筆の進め方とそのポイントを理解する。		自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したり、引用の方法や参考文献の示し方や注の付け方などに留意するなど、表現のしかたを工夫している。	
11	言葉で遊ぶ	さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにする。	12	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、言葉遊びの中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	
12	語彙を増やす		9		
1	グループディスカッションをしよう	積極的に話し合いに参加し、話し合いに貢献する。ほかの人の話をよく聞き、その趣旨や価値を理解する。	9	互いの主張や論拠を吟味したり、進行や展開を助けるために発言を工夫したりしながら、話し合いのしかたや結論の出し方を工夫している。	
2			9		

教科名	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コース理系）		履修形態	選 択	
科目の目標	<p>1. 地球の地形、気候、生態系、人口分布などの基本的な地理的概念を理解する。</p> <p>2. 地球上の地理的な相互作用や変化を認識し、それらが生活や社会に与える影響を理解する。</p> <p>3. 地理情報システム（GIS）や地図の読み取り、地理的なデータの収集と解釈を行う能力を開発する。</p> <p>4. 地球上の様々な地域や文化を比較し、異なる地理的な視点から世界を理解する。</p> <p>5. 地球の持続可能な利用や環境問題に関心を持ち、地球市民としての責任を理解する。</p> <p>6. 地理的な問題解決能力を向上させ、地理情報を活用して現実世界の課題に対処する方法を考える。</p>				
学習内容の概要	<p>1. 基本的な地理概念の習得 生徒は地球の地形、気候、生態系、人口分布などの基本的な地理的概念を学ぶ。これには地球の層構造、地形の形成過程、気候帯の特徴、生物多様性、人口動態などが含まれる。</p> <p>2. 地理情報の利用 生徒は地図や地理情報システム（GIS）などのツールを活用して、地理的なデータを収集し、解釈する。地図の読み取りや作成、地理的なデータの分析方法を学ぶ。</p> <p>3. 地理的な相互作用の理解 生徒は地球上の地理的な相互作用や変化を探求し、それらが生活や社会に与える影響を理解する。例えば、地形や気候が人々の生活や経済活動に与える影響や、地域間の相互関係について考察する。</p> <p>4. 地域研究と比較 生徒は地球上の様々な地域や文化を研究し、比較する。異なる地理的な背景や文化的な要因が地域の特徴や発展にどのような影響を与えるかを考察する。</p>				
評価観点・評価の方法	<p><観点> (1) 知識・技能 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p><方法> 授業態度、提出物、課題研究、定期考査などをふまえ、総合的に判断する</p>				
学習方法	<p>1. 地図の活用 地図の読み取り、作成を通して地理的な情報を分析する。地図を使って地形や気候、人口分布などの地理的特徴を理解し、地理的な相互作用を探求する。</p> <p>2. ケーススタディと比較研究 生徒は地域や現象に焦点を当てたケーススタディや比較研究を通じて、地理的な理解を深める。異なる地域や文化を比較し、地理的な相違点や共通点を分析することで、地理的なパターンや要因を理解する。</p> <p>3. ディスカッションとディベート 生徒は地理的な問題や現象についてディスカッションを行い、異なる視点や意見を共有する。また、ディベートを通じて、地理的な問題や政策について学び、多面的に考察する。</p> <p>4. プロジェクトベースの学習 生徒は地理的な問題解決や調査研究を目的としたプロジェクトに取り組む。</p> <p>これらの学習方法を組み合わせることで地理探求に関する幅広い知識やスキルを身につける。また、実践的な活動や関連性の高いテーマを取り入れることで、生徒の関心やモチベーションを高める。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『新詳地理探求（帝国書院）』『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『新詳地理探究演習ノート』（帝国書院） 各種プリント、配信課題など</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント *学習項目
4	自然環境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地形 2. 気候 3. 日本の自然環境 4. 地球環境問題 	9	自然環境の複雑さや重要性を理解し、地球環境の保全と持続可能な開発に向けた取り組みを促進する能力を身につけさせる。
5	資源と産業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農林水産業 2. 食料問題 3. エネルギー・鉱産資源 4. 資源・エネルギー問題 5. 工業 	12	資源の重要性や利用方法、産業の構造や経済への影響など、地理的な視点から社会経済システムを理解し、持続可能な開発に向けた取り組みを考える能力が身につけさせる。
6	交通・通信と観光、貿易	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通・通信 2. 観光 3. 貿易と経済圏 	12	交通・通信と観光、貿易の重要性や影響、持続可能性に関する知識を習得し、地理的な視点から世界のつながりと持続可能な発展に貢献する能力を身につけさせる。
7	人口、村落・都市	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口 	12	人口の動態や都市化の進行、村落の特性や都市計画の重要性などを理解し、地域社会の発展と持続可能な都市・地域の構築に向けた知識と能力を身につけさせる。
8		<ol style="list-style-type: none"> 2. 人口問題 3. 村落と都市 4. 都市・居住問題 		
9	生活文化、民族・宗教	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣食住 2. 民族・宗教と民族問題 3. 国家の領域と領土問題 	12	生活文化、民族、宗教の多様性と複雑さを理解し、異なる文化や宗教が地域社会や国際社会に与える影響を分析する能力を身につけさせる。
10	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域区分の意義と指標 	12	持続可能な未来への取り組みを考える能力を身につけさせる。
11		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国 2. 韓国 3. ASEAN諸国 4. インド 5. 西アジアと中央アジア 6. 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7. EU諸国 8. ロシア 	12	現代世界の各地域の特徴や課題、可能性を理解し、持続可能な未来を築くための地理的な視点やアプローチを身につけさせる。
12		<ol style="list-style-type: none"> 9. アメリカ諸国 10. ラテンアメリカ 11. オーストラリアとニュージーランド 	9	
1	持続可能な国土像の探求	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来の国土の在り方 2. 持続可能な日本の国土像の研究 	9	持続可能な国土像の構築に必要な知識、スキル、そして行動を身につけ、地理学的な視点から持続可能な未来の実現に貢献する能力を養わせる。

教科名	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学・キャリア グローバル）		履修形態	選 択	
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理的な理解の深化 地球上の地域や環境の相互関係や特徴について理解を深める。地形、気候、生態系、人口などの地理的要素に関する知識を習得する。 2. 地域間の比較と関係の理解 地域ごとの社会経済的、文化的な違いを理解し、比較する能力を養う。 3. 持続可能な開発への取り組み 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた理解を深め、地域や世界の持続可能な未来に貢献する能力を育成する 4. 地域課題への対応力 地域ごとの課題や問題に対処するための地理的なアプローチを学び、解決策を考える能力を養う。 				
学習内容の概要	<p>第1部 現代世界の系統地理的考察 第2章 資源と鉱産 6節 第3次産業 第3章 交通・通信と観光, 貿易 第4章 人口, 村落・都市 第5章 生活文化, 民族・宗教</p> <p>第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の研究</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 知識・技能 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各章や節の要約を作成し、主要なポイントや関連性を把握する。 ・自分で地図を描いたり、地図上に情報を追記することで理解が深める。 ・習った内容を定期的に復習し、理解を定着させる。また、過去の問題集や過去の試験問題を解くことで、自分の理解度や問題解決能力を確認する。 				
教科書・教材等	教科書『地理探究』（帝国書院）／『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『新詳地理探究演習ノート』（帝国書院） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	資源と産業	6. 第3次産業	6	資源の重要性や利用方法、産業の構造や経済への影響など、地理的な視点から社会経済システムを理解し、持続可能な開発に向けた取り組みを考える能力が身につけさせる。
5	交通・通信と観光、貿易	1. 交通・通信 2. 観光 3. 貿易と経済圏	8	交通・通信と観光、貿易の重要性や影響、持続可能性に関する知識を習得し、地理的な視点から世界のつながりと持続可能な発展に貢献する能力を身につけさせる。
6	人口、村落・都市	1. 人口 2. 人口問題 3. 村落と都市 4. 都市・居住問題	8	人口の動態や都市化の進行、村落の特性や都市計画の重要性などを理解し、地域社会の発展と持続可能な都市・地域の構築に向けた知識と能力を身につけさせる。
7	生活文化、民族・宗教	1. 衣食住 2. 民族・宗教と民族問題 3. 国家の領域と領土問題	8	生活文化、民族、宗教の多様性と複雑さを理解し、異なる文化や宗教が地域社会や国際社会に与える影響を分析する能力を身につけさせる。
8	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域	1. 地域区分の意義と指標		持続可能な未来への取り組みを考える能力を身につけさせる。
9		1. 中国 2. 韓国 3. ASEAN諸国 4. インド 5. 西アジアと中央アジア	8	現代世界の各地域の特徴や課題、可能性を理解し、持続可能な未来を築くための地理的な視点やアプローチを身につけさせる。
10		6. 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7. EU諸国 8. ロシア 9. アメリカ諸国	8	
11		10. ラテンアメリカ 11. オーストラリアとニュージーランド	8	
12	持続可能な国土像の探求	1. 将来の国土の在り方 2. 持続可能な日本の国土像の研究	6	持続可能な国土像の構築に必要な知識、スキル、そして行動を身につけ、地理学的な視点から持続可能な未来の実現に貢献する能力を養わせる。
1			6	

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	4単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	選択	
科目の目標	<p>わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深める。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことを目指す。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>①江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p> <p>②明治維新と立憲国家成立の過程を、西洋や東アジア諸国との関連の中で考え、西洋文明・近代思想の影響を学ぶ。</p> <p>③日清・日露戦争と日本が帝国主義国家に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを考察する。</p> <p>④政党政治の発展と大衆の関係、恐慌の繰り返しと軍部の台頭を考察しながら、日中・太平洋戦争への過程を学ぶ。</p> <p>⑤アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷と、冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
学習方法	<p>「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考える。</p> <p>そのために、時代ごとの全体像—いくつかの項目の相関関係図—を考えノートにまとめ、それぞれの時代の特徴や構造をつかむ。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、近・現代史の出題が増える傾向にある。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養う。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「詳説日本史 日本史探究」（山川出版社） 各種プリント 副教材 Winning COM. -PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	幕藩体制の展開	①幕政の改革 ②宝暦・天明	1 2	○幕藩体制は日本の近代化の礎となりました。経済の発展や文化の繁栄を支え、社会の安定を保ちましたが、同時に変革の必要性を理解する。	
5	近世から近代へ	①開国と幕末の動乱 ②幕府の滅亡と新政府の発足	1 6	○19世紀には、欧米列強の圧力や国内の不満から幕府の弱体化が進み、最終的には幕末の動乱を考察する。	
6	(近代・現代) 近代国家の成立	①明治維新と富国強兵 ②立憲国家の成立	1 6	○明治維新と立憲国家の成立過程を、西洋や東アジア諸国との関連で考える。また、西洋文明・近代思想の影響を受けた文明開化の風潮の広がりを学ぶ。	
7	近代国家の展開	①日清・日露戦争と国際関係 ②第一次世界大戦と日本 ③ワシントン体制	1 6	○日清・日露戦争とわが国が帝国主義国に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを理解する。	
8			1 6		
9			1 6		
10	近代の産業と生活	①代産業の発展 ②近代文化の発達 ③市民生活の変容と大衆文化	1 6	○江戸文化の継承と欧米文化導入による近代文化の発展を考察する。	
11	恐慌と第二次世界大戦	①恐慌の時代 ②軍部の台頭 ③第2次世界大戦	1 6	○第1次世界大戦を通じて強国に成長した日本が、一歩で、台湾の領有、韓国併合など東アジアへの進出を強めていく過程を理解する。	
12	占領下の日本	①占領と改革 ②冷戦の開始と講話	1 2	○政党政治の発展と大衆との関係、恐慌と軍部の台頭を考察しながら、アジア・太平洋戦争の過程を学ぶ。	
1	高度成長の時代 激動する世界と日本	①55年体制 ②経済復興から高度成長へ ①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の動揺	1 2	○アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造を学ぶ。 ○冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷を考察する。 ○冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。	
				○日本史におけるまとめ	

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学・キャリア ローカル）		履修形態	選 択	
科目の目標	<p>日本史という科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>①江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p> <p>②明治維新と立憲国家成立の過程を、西洋や東アジア諸国との関連の中で考え、西洋文明・近代思想の影響を学ぶ。</p> <p>③日清・日露戦争と日本が帝国主義国家に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを考察する。</p> <p>④政党政治の発展と大衆の関係、恐慌の繰り返しと軍部の台頭を考察しながら、日中・太平洋戦争への過程を学ぶ。</p> <p>⑤アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷と、冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>以上の観点を・出席状況や授業中の態度・科目に対する主体的な姿勢・提出物（ノート・授業配布プリント等）・小テスト（適宜）・定期試験（学習理解度）などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>授業をしっかりと聞き、教科書や授業時のノートを活用して復習する。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。政治史を中心とした歴史の流を頭に置きながら、時代ごとの特徴を理解するようにしたい。</p> <p>また入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。</p>				
教科書・教材等	教科書「高等学校 日本史探究」（清水書院） プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第3編 近世の 日本と世界	第3章 近世の国家・社会の展開と画期	6	○幕藩体制は、江戸時代初期に徳川家康によって確立された。これを、徳川幕府が全国の藩主（大名）に対して支配を行い、彼らに対する統制を強化することで国内の安定を図る体制であることを理解させる。 ○幕藩体制は一定の安定をもたらしましたが、時代が進むにつれてその弊害も浮き彫りになりました。藩主の財政難や政治的対立、外圧などにより、幕藩体制は次第に崩壊の兆候を理解する。
5		第1節 幕藩体制の成立と近世の社会	8	
6		第2節 幕藩体制の動揺と社会の変化	8	
7	第4編 近現代の 地域・日本と世界	第1章 近代への転換と歴史的環境	8	○幕末期には外圧や不満が高まり、幕府は動揺しました。薩摩藩や長州藩などからの挙兵や幕府の弱体化を理解する。 ○近現代の日本は急速な近代化と工業化、そして第二次世界大戦後の復興を経験しました。この時期における政治、経済、社会の変化や日本の国際的な地位の変遷を理解する。
8		第2章 歴史資料と近代の展望	8	
9		第3章 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	8	
10		第1節 近代国家の形成	8	
11		第2節 政党政治と大衆社会	8	
12	第3節 第二次世界大戦と日本の社会	6	○第二次世界大戦において、日本は敗戦し、経済的、社会的に荒廃しました。しかし、戦後には急速な復興が行われ、日本は経済大国として再興したのを理解する。 ○近現代の日本は、孤立主義から国際的な積極的な参加へと転換しました。日米同盟の結成や国際機関への積極的な参加したことを理解する。	
1	第4節 現代の日本と世界	6		

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	4 単位
対象学年	3 学年（特別進学コース文系）		履修形態	選択	
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>				
学習内容の概要	<p>第Ⅱ部「諸地域の交流・再編」 ヨーロッパ世界の変容と展開 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 大交易・大交流の時代 南アジア世界と東南アジア世界の展開 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>第Ⅲ部「諸地域の結合・変容」 産業革命と環大西洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と世界の変容 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>…「歴史総合」で学習した「資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能」や「問いを表現する」学習などの成果を踏まえて、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解することができるように、生徒が歴史を捉える切り口である観点に基づいて考察し問いを表現して、課題意識や学習の見通しをもたせつつ、その後の学習へ展開する。</p> <p>第Ⅳ部「地球世界の課題」 冷戦と第三次世界の台頭 冷戦の終結と今日の世界</p> <p>…生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して、歴史的に形成された地球世界の課題を主体的に探究する活動を通して地球世界の課題を理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>以上のような3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『詳説世界史 世界史探究』（山川出版社） 各種のプリント、配信課題 など</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況	
4	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	ヨーロッパ世界の変容と展開	12	ヨーロッパの封建社会について理解する。11世紀以降のヨーロッパ世界の変容について考察する。		
5		東アジア世界の展開とモンゴル帝国	16	モンゴル帝国が成立した背景とモンゴル帝国が果たした役割を多面的・多角的に考察する。		
6		大交易・大交流の時代	16	アジア諸地域の動向に関わる諸事象、相互のつながりを理解する。		
		アジアの諸帝国の繁栄		オスマン帝国の興亡の歴史を理解する。		
7・8		第Ⅲ部 諸地域の結合・変容	近世ヨーロッパ世界の動向	16		ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。
			産業革命と環大西洋革命	16		産業革命がもたらした産業化の進展や経済成長は、世界経済や社会構造に大きな変革をもたらした。また、環大西洋革命によって近代の政治体制や価値観が形成されたことを理解させる。
	イギリスの優位と欧米国民国家の形成		16	イギリスの経済的な優位と欧米国民国家の形成により、世界の政治的な地図や社会構造が大きく変化した。これらの変化は、世界史の中で重要な転換点であることを理解させる。		
	アジア諸地域の動揺		16	アジア諸地域の動揺は、植民地支配や帝国主義の拡大による諸問題や抵抗、そして経済的發展や文化的交流など多様な要素を含んでいる。それらを包括的に評価する。		
	帝国主義とアジアの民族運動		16	第一次世界大戦は世界史における重要な転換点であり、多くの面で世界の変容をもたらしました。その影響は現代に至るまで続いており、戦争の教訓や平和の追求に対する警鐘として考えることが重要であることを理解させる。		
9		第一次世界大戦と世界の変容	16			
10		第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	16	第二次世界大戦は世界の歴史における重要な節目であり、新しい国際秩序の形成に大きな影響を与えました。戦後の国際関係や平和の維持、経済的な発展など、多くの側面で世界の変容を理解させる。		
11			12			
12	第Ⅳ部 地球世界の課題	冷戦と第三世界の台頭	12	国際社会や地域社会、個々の人々が協力し、持続可能な社会や地球を築くための解決策を模索していくことを考察させる		
1	総復習	冷戦の終結と今日の世界	12			

教科名	公民	科目名	倫理	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	生徒が日常生活や社会問題における倫理的な側面や葛藤を識別し、それらを分析し、解決策を考える能力を身につける。生徒が異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重することができるようにする。生徒が自らの行動や選択が社会に与える影響を理解し、良き市民としての責任を果たす意識を育むようにする。				
学習内容の概要	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方と生き方 第1章 人間の心と自己形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 第3章 人間のあり方と社会 第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第2編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 善悪、正義、義務、道徳などの倫理学の基本概念について理解する。異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重する能力を養う。日常生活や社会における倫理的な問題やジレンマについて学び、それらを理解する。 (2) 思考・表現・判断 倫理的な価値観や原則に基づいて自分の考えを形成し、他者との議論やディベートを通じてそれを検証する能力を身につける。倫理的な立場や意見を正確かつ効果的に伝えるための表現スキルを身につける。倫理的な価値観や原則に基づいて、個人や社会にとって適切な行動や選択を行う能力を養う。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 生徒が授業内でのディスカッションやグループワークに積極的に参加し、他の生徒との意見交換や協力を通じて学ぶことを重視する。生徒が学んだ内容を現実の社会や日常生活に結びつけ、実践的な活動や行動に繋げることを評価する。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	教科書や関連をしっかりと読み、倫理の基本概念や理論を理解することが大切です。インターネットや書籍などの情報源を活用する際には、信頼性の高い情報を選別し、批判的な目で情報を評価する能力を身につけること。自分の興味や関心に合った倫理的な問題について深く掘り下げます。独自の視点や意見を発展させ、他者と共有すること。				
教科書・教材等	教科書「高等学校 倫理」（第一学習社） 倫理ノート（第一学習社） プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 第1章 人間の心と自己形成	人間とは何か／さまざまな人間の心のあり方／自立して生きる主体の形成	6	○生徒が自己認識や他者との関係性、価値観や倫理観の形成など、倫理的な自己形成に関する概念や原則を理解する。
5	第2章 人間の存在や価値と宗教	ギリシアの思想／ユダヤ教とキリスト教／イスラーム／仏教／中国の思想／宗教や芸術	8	○異なる宗教の世界観や信仰の核心を理解し、それが人間の存在や意義にどのように影響を与えるかを把握する。
6	第3章 人間のあり方と社会	人間の尊厳／科学革命の時代と自然観／自由で平等な社会の実現／人間性の回復と主体性の確立	8	○個人の行動や選択が社会全体に与える影響や貢献について理解し、社会的な価値観と個人の尊厳との関係を考察する。
7	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	現代の思想と人間像／生命への畏敬と社会参加	8	○現代の主要な思想や理論（リベラリズム、コミュニタリアニズム、フェミニズムなど）について理解し、その背景や基本的な概念を把握する。
8	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本固有の思想／外来思想の受容／町人意識のめざめと庶民思想／西洋思想との出会い	8	○持続可能な社会の実現や環境保護の重要性を理解し、国際社会における取り組みや責任について考える。
9	第2編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理	生命の問題と倫理問題／地球環境の問題と倫理的課題／科学技術の進展と倫理的課題	8	○科学技術の発展がもたらす社会や環境への影響を考え、持続可能な開発の観点から倫理的な行動を取ることの重要性を理解する。
10	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	福祉の向上と倫理的課題／文化と宗教の影響と倫理的課題／国際平和と倫理的課題	8	○多文化社会における共生と社会的結束の重要性を理解し、異なる文化間の調和を促進する方法を考える。
11			8	
12			6	
1	まとめ		6	

教科名	公民	科目名	倫理	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	生徒が日常生活や社会問題における倫理的な側面や葛藤を識別し、それらを分析し、解決策を考える能力を身につける。生徒が異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重することができるようにする。生徒が自らの行動や選択が社会に与える影響を理解し、良き市民としての責任を果たす意識を育むようにする。				
学習内容の概要	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方と生き方 第1章 人間の心と自己形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 第3章 人間のあり方と社会 第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第2編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 善悪、正義、義務、道徳などの倫理学の基本概念について理解する。異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重する能力を養う。日常生活や社会における倫理的な問題やジレンマについて学び、それらを理解する。 (2) 思考・表現・判断 倫理的な価値観や原則に基づいて自分の考えを形成し、他者との議論やディベートを通じてそれを検証する能力を身につける。倫理的な立場や意見を正確かつ効果的に伝えるための表現スキルを身につける。倫理的な価値観や原則に基づいて、個人や社会にとって適切な行動や選択を行う能力を養う。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 生徒が授業内でのディスカッションやグループワークに積極的に参加し、他の生徒との意見交換や協力を通じて学ぶことを重視する。生徒が学んだ内容を現実の社会や日常生活に結びつけ、実践的な活動や行動に繋げることを評価する。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	教科書や関連資料をしっかりと読み、倫理の基本概念や理論を理解する。インターネットや書籍などの情報源を活用する際には、信頼性の高い情報を選別し、批判的な目で情報を評価する能力を身につけること。自分の興味や関心に合った倫理的な問題について深く掘り下げて考える。独自の視点や意見を発展させ、他者と共有すること。				
教科書・教材等	教科書「高等学校 倫理」（第一学習社） 倫理ノート（第一学習社） プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方		6	
5	第1章 人間の心と自己形成	人間とは何か／さまざまな人間の心のあり方／自立して生きる主体の形成	8	○生徒が自己認識や他者との関係性、価値観や倫理観の形成など、倫理的な自己形成に関する概念や原則を理解する。
6	第2章 人間の存在や価値と宗教	ギリシアの思想／ユダヤ教とキリスト教／イスラーム／仏教／中国の思想／宗教や芸術	8	○異なる宗教の世界観や信仰の核心を理解し、それが人間の存在や意義にどのように影響を与えるかを把握する。
7	第3章 人間のあり方と社会	人間の尊厳／科学革命の時代と自然観／自由で平等な社会の実現／人間性の回復と主体性の確立	8	○個人の行動や選択が社会全体に与える影響や貢献について理解し、社会的な価値観と個人の尊厳との関係を考察する。
8	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	現代の思想と人間像／生命への畏敬と社会参加	8	○現代の主要な思想や理論（リベラリズム、コミュニタリアニズム、フェミニズムなど）について理解し、その背景や基本的な概念を把握する。
9	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本固有の思想／外来思想の受容／町人意識のめざめと庶民思想／西洋思想との出会い	8	○持続可能な社会の実現や環境保護の重要性を理解し、国際社会における取り組みや責任について考える。
10	第2編 現代の諸課題と倫理		8	
11	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理	生命の問題と倫理問題／地球環境の問題と倫理的課題／科学技術の進展と倫理的課題	8	○科学技術の発展がもたらす社会や環境への影響を考え、持続可能な開発の観点から倫理的な行動を取ることの重要性を理解する。
12	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	福祉の向上と倫理的課題／文化と宗教の影響と倫理的課題／国際平和と倫理的課題	6	○多文化社会における共生と社会的結束の重要性を理解し、異なる文化間の調和を促進する方法を考える。
1	まとめ		6	

教科名	公民	科目名	倫理	単位数	2単位
対象学年	第3学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	生徒が日常生活や社会問題における倫理的な側面や葛藤を識別し、それらを分析し、解決策を考える能力を身につける。生徒が異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重することができるようにする。生徒が自らの行動や選択が社会に与える影響を理解し、良き市民としての責任を果たす意識を育むようにする。				
学習内容の概要	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方と生き方 第1章 人間の心と自己形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 第3章 人間のあり方と社会 第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第2編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 善悪、正義、義務、道徳などの倫理学の基本概念について理解する。異なる文化や宗教、価値観からの倫理的な視点を理解し、尊重する能力を養う。日常生活や社会における倫理的な問題やジレンマについて学び、それらを理解する。 (2) 思考・表現・判断 倫理的な価値観や原則に基づいて自分の考えを形成し、他者との議論やディベートを通じてそれを検証する能力を身につける。倫理的な立場や意見を正確かつ効果的に伝えるための表現スキルを身につける。倫理的な価値観や原則に基づいて、個人や社会にとって適切な行動や選択を行う能力を養う。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 生徒が授業内でのディスカッションやグループワークに積極的に参加し、他の生徒との意見交換や協力を通じて学ぶことを重視する。生徒が学んだ内容を現実の社会や日常生活に結びつけ、実践的な活動や行動に繋げることを評価する。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	教科書や関連をしっかりと読み、倫理の基本概念や理論を理解することが大切です。インターネットや書籍などの情報源を活用する際には、信頼性の高い情報を選別し、批判的な目で情報を評価する能力を身につけること。自分の興味や関心に合った倫理的な問題について深く掘り下げます。独自の視点や意見を発展させ、他者と共有すること。				
教科書・教材等	教科書「高等学校 倫理」（第一学習社） 倫理ノート（第一学習社） プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方		6	
5	第1章 人間の心と自己形成	人間とは何か／さまざまな人間の心のあり方／自立して生きる主体の形成	8	○生徒が自己認識や他者との関係性、価値観や倫理観の形成など、倫理的な自己形成に関する概念や原則を理解する。
6	第2章 人間の存在や価値と宗教	ギリシアの思想／ユダヤ教とキリスト教／イスラーム／仏教／中国の思想／宗教や芸術	8	○異なる宗教の世界観や信仰の核心を理解し、それが人間の存在や意義にどのように影響を与えるかを把握する。
7	第3章 人間のあり方と社会	人間の尊厳／科学革命の時代と自然観／自由で平等な社会の実現／人間性の回復と主体性の確立	8	○個人の行動や選択が社会全体に与える影響や貢献について理解し、社会的な価値観と個人の尊厳との関係を考察する。
8	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	現代の思想と人間像／生命への畏敬と社会参加	8	○現代の主要な思想や理論（リベラリズム、コミュニタリアニズム、フェミニズムなど）について理解し、その背景や基本的な概念を把握する。
9	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本固有の思想／外来思想の受容／町人意識のめざめと庶民思想／西洋思想との出会い	8	○持続可能な社会の実現や環境保護の重要性を理解し、国際社会における取り組みや責任について考える。
10	第2編 現代の諸課題と倫理		8	
11	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理	生命の問題と倫理問題／地球環境の問題と倫理的課題／科学技術の進展と倫理的課題	8	○科学技術の発展がもたらす社会や環境への影響を考え、持続可能な開発の観点から倫理的な行動を取ることの重要性を理解する。
12	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	福祉の向上と倫理的課題／文化と宗教の影響と倫理的課題／国際平和と倫理的課題	6	○多文化社会における共生と社会的結束の重要性を理解し、異なる文化間の調和を促進する方法を考える。
1	まとめ		6	

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	現代の経済 ①経済社会の変容	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容	6	アダム＝スミス・ケインズ・マルクス 新自由主義
5	②現代経済の仕組み	1. 市場機構	8	ストックとフロー 銀行・日本銀行・金融政策・財政政策・租税 景気の変動・国民福祉
6		2. 現代の企業	8	
7		3. 国民所得と経済成長	8	
8		4. 金融のしくみ	8	経済の民主化・神武景気・岩戸景気・ オリンピック景気・いざなぎ景気 バブル経済
8		5. 財政のしくみ	8	
9	③現代経済と福祉 の向上	1. 経済の停滞と再生	8	公害・環境保全・資源、エネルギー問題
10		2. 日本の中小企業と農業	8	農業基本法
		3. 国民の暮らし	8	消費者の4つの権利
11		4. 環境保全と公害防止	8	公害・環境保全
		5. 労使関係と労働条件の 改善	8	労働三権・労働三法
		6. 社会保障の役割	8	社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
12	現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国 際収支	6	国際収支・外国為替の仕組み
1		2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と世界金 融	6	南北問題 F T A ・ E P A
		4. 地域経済統合と新興国 の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の 課題	6	国際協調・国際経済における日本の役割

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	現代の経済 ①経済社会の変容	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容	6	アダム＝スミス・ケインズ・マルクス 新自由主義
5	②現代経済の仕組み	1. 市場機構	8	ストックとフロー 銀行・日本銀行・金融政策・財政政策・租税 景気の変動・国民福祉
6		2. 現代の企業	8	経済の民主化・神武景気・岩戸景気・ オリンピック景気・いざなぎ景気 バブル経済
7		3. 国民所得と経済成長		
8		4. 金融のしくみ		
8		5. 財政のしくみ	8	
9	③現代経済と福祉 の向上	1. 経済の停滞と再生	8	公害・環境保全・資源、エネルギー問題
10		2. 日本の中小企業と農業	8	農業基本法
		3. 国民の暮らし	8	消費者の4つの権利
11		4. 環境保全と公害防止	8	公害・環境保全
		5. 労使関係と労働条件の改善	8	労働三権・労働三法
11		6. 社会保障の役割	8	社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
12	現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国際収支	6	国際収支・外国為替の仕組み 南北問題 F T A ・ E P A 国際協調・国際経済における日本の役割
1		2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と世界金融 4. 地域経済統合と新興国の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の課題	6	

教科名	公民	科目名	公共発展	単位数	2単位
対象学年	3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2. 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方（スキル）を身につける。 3. 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	<p>主に国内の政治・経済に関して以下のような観点から学ぶ。</p> <p>①社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>③公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>④自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。</p> <p>(2) 思考・表現・判断 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。</p> <p>3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。家庭学習については、予習は特に必要ないが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を確立する。				
教科書・教材等	教科書『詳述公共』（実教出版） 副教材『詳述公共マイノート』（実教出版） 各種のプリント 配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第3章 現代の経済社会	経済社会の形成と変容 ／市場のしくみ／現代 の企業／経済成長と景 気変動／金融機関の働 き／政府の役割と財政・ 租税	6 8 8	・公正かつ自由な経済活動を行うことを通 して資源の効率的な配分が図られること、 市場経済システムを機能させたり国民福 祉の向上に寄与したりする役割を政府な どが担っていることなどについて理解さ せる。	
5					
6	第4章 経済活動のあり 方と国民福祉	日本経済の歩みと近年 の課題／中小企業と農 業／公害防止と環境保 全／消費者問題／労働 問題と雇用／社会保障	8	多様な契約及び消費者の権利と責任、職業 選択、雇用と労働問題、少子高齢社会にお ける社会保障の充実・安定化などに関わる 現実社会の事柄や課題について主体的に 考えさせる。	
7・8					
9	第5章 国際政治の動向 と課題	国際社会における政治 と法／国家安全保障と 国際連合／冷戦終結後 の国際政治／軍備競争 と軍備縮小／異なる人 種・民族との共存／国際 平和と日本	8	国際機関の役割や課題を理解し、それらが 国際政治の安定や発展に与える影響を考 察する。 地域間の緊張や協力の要因や影響を理解 し、国際協力や地域統合の重要性を考え る。	
10					
11	第6章 国際経済の動向 と課題	国際経済のしくみ／国 際経済体制のしくみ／ 経済のグローバル化と 金融危機／地域経済統 合と新興国／ODA と経 済協力	8	グローバル化の進展が国際経済にどのよ うな影響を与えているかを理解し、それ に対する個々の国や地域の経済政策の対 応を考察する。 経済格差や貧困の原因と影響を理解し、そ れらに対処するための国際的な取り組み や政策を考える。	
12	総復習		6		
1			6		

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	2 単位												
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修													
科目の目標	三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。																
学習内容の概要	<p>(1) 指数関数と対数関数 指数法則を0や負の数まで拡張し、その概念や計算方法を学ぶ。 対数についてその定義を学習し、その計算方法を学ぶ。 また、実社会で使用されている例もについても学習する。</p> <p>(2) 微分法と積分法 1 微分係数と導関数, 2 関数の値の変化, 3 積分法 導関数を用いてグラフの外形を描くことができるようにする。それを方程式の解や不等式の証明に活用する。定積分を用いて関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。</p>																
評価の観点・ 評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	単元テスト・小テスト		提出物・課題			独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
単元テスト・小テスト		提出物・課題															
		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>授業で毎回配布する課題プリントを授業内で必ず解き、提出する。 まずは、授業を大切に、積極的に担当教員に質問をするなど、理解が不十分な内容を放置しないことが大切である。家庭では、理解が不十分だと思われる問題に取り組むなど復習を徹底すること。また、問題集による演習を通して理解の定着を図り、学習内容に対する理解を確実なものにすることが大切である。</p>																
教科書・教材等	<p>教科書・・・最新数学Ⅱ（数研出版） 副教材・・・3TRIAL 数学ⅡB（数研出版）</p>																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第5章 指数関数 と対数関数	1. 指数法則	4	指数法則を0や負の数まで拡張し、その概念や計算方法を学ぶ。指数関数のグラフからその変化のしかたについて学ぶ。対数についてその定義を学習し、その計算方法や性質について学ぶ。対数関数のグラフからその変化のしかたについて学ぶ。常用対数の性質やその応用例について学ぶ。
5		2. 指数関数とそのグラフ	3	
		3. 対数	3	
		4. 対数の性質	3	
6		5. 対数関数とそのグラフ	3	
		6. 常用対数	5	
7				
8				
9	第6章 微分法と 積分法 第1節 微分係数 と導関数	1 微分係数	3	平均変化率や微分係数の意味・導関数の定義を理解する。導関数の和・差・実数倍が求められるようにする。接線の方程式を導き、導関数についての考察を通して、関数の増加・減少を調べる、極大値・極小値を求めることで、3次関数・4次関数のグラフがかけられるようにする。グラフをから関数の最大・最小や方程式・不等式への応用について取り組む。微分の逆演算として不定積分を導入し、関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を求める。グラフで囲まれる部分の面積を求めるなど応用に取り組む。
		2 導関数とその計算	4	
		3 接線の方程式	3	
10				
11	第2節 関数の値 の変化	4 関数の増減と極大・極小	2	
12		5 関数の増減・グラフの応用	2	
	第3節 積分法	6 不定積分	2	
		7 定積分	3	
		8 図形の面積と定積分	2	
1				
2				

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	4 単位
対象学年	第3 学年（特別進学コース理系）		履修形態	選択	
科目の目標	<p>極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>(1) 関数 分数関数と無理関数の簡単な関数について、そのグラフをかいたり、グラフを利用して方程式や不等式が解けるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解する。</p> <p>(2) 極限 数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、数列の極限と大小関係などの基本事項を理解し、無限等比数列 $\{r^n\}$ の極限についてまとめ、数列の極限の理解を深める。 無限級数の和について理解する。それを、無限等比級数に応用して、その収束条件や和の公式を導く。さらに、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。 x の値を限りなく a に近づけたとき、あるいは x の値を限りなく大きくしたときなどの $f(x)$ の極限について理解する。三角関数の極限では $\lim_{\theta \rightarrow 0} \sin \theta / \theta = 1$ を扱い、それに関連するいろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、関数の連続性を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p> <p>(3) 微分法 微分可能性の概念を理解し、微分可能性と連続性との関係を把握する。また和・差・積・商の導関数の公式、合成関数、逆関数、陰関数の微分法を示して、微分の演算の習得を目指す。 三角関数の微分、対数関数の微分の技法を習得し、それと関連して自然対数の底 e を導入して指数関数の微分ができるようにする。また、高次導関数の概念を理解し、簡単な関数の第2次、第3次導関数が求められるようにする。</p> <p>(4) 微分法の応用 導関数を用いて様々な問題への活用を図ります。接線や法線の方程式を求めること、平均値の定理を用いて $f'(x)$ と $f(x)$ の増減を調べること、最大・最小や方程式・不等式の証明問題などへの応用を図り、微分の有用性を認識する。 第2次導関数を用いてグラフの凹凸、変曲点を調べてグラフをかけるようにする。</p> <p>(5) 積分法とその応用 微分法と同様に、扱う関数の範囲を広げ、積分の基本的な性質や置換積分法、部分積分法について理解し、これらを用いた計算をできるようにする。 定積分と微分の関係、区分求積法について学び、定積分について理解を深め、不等式の証明を行う。 いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を計算する。また、媒介変数で表された曲線によって囲まれた図形の面積も求められるようにする。 積分による体積の求め方を扱う。角錐や円錐などの体積を求め、積分の有用性を理解します。さらに、回転体の体積を求める技法を習得し、体積が求められるようにする。 円弧やサイクロイドの曲線の長さを計算する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だと思われる問題をひとりでずらずら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	教科書・・・新編数学Ⅲ（数研出版） 副教材・・・改訂版 教科書傍用 TRIAL 数学Ⅲ（数研出版） 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅲ（数研出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	1 2	分数関数、無理関数のグラフをかき、そのグラフを利用して、方程式や不等式を解く。具体的な関数について、逆関数・合成関数を求める。
5	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限等比級数 4 関数の極限 (1) 5 関数の極限 (2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	1 6	数列の極限の概念を確認し、収束・発散の意味を理解する。無限等比級数の収束・発散の意味を理解し、極限の計算を正確に行う。関数の極限の意味と極限值の性質について学び、指数・対数・三角関数の極限を求める。関数の連続性の意味を確認し、連続関数の基本的な性質と応用について学ぶ。
6	第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	1 6	関数の微分可能性と連続性との関連について学ぶ。積と商の導関数、合成関数や逆関数の微分法の演算技法を理解し、その応用について学ぶ。三角関数を含んだ関数、や、対数・指数関数を含んだ関数を微分する計算を習得する。第n次導関数の概念と記号を学び、第2次、第3次導関数を求める。微分する方法を習得する。
7 8	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	1 6	微分係数の幾何学的意味を再確認し、接線の方程式とその応用について学ぶ。平均値の定理についてその意味を理解するとともに、その活用について学ぶ。様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフをかく。第2次導関数を用いて、グラフの凸凹、変曲点、調べる。微分法を用いて、方程式の実数解の個数を調べたり、不等式の証明を行ったりする。微分法により、運動の速度・加速度を系統的に学ぶ。導関数を用いて、1次近似式を導き、関数の近似式を求める。
9	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分	1 6	微分法の逆演算としての不定積分を再確認し、積分定数の意味について考える。置換積分法と部分積分法の原理と具体的な方法について学び、それらの計算が適確に行う。いろいろな関数について不定積分の公式を活用できるようにする。
10	第2節 定積分	4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法	1 6	不定積分をもとにして、いろいろな関数の定積分の計算ができるようにする。置換積分法と部分積分法の計算技法について具体的な例を学ぶ。区分積分法と定積分の関係について学び、これをもとにして数列の極限を求めたり、不等式の証明を行ったりする。
11		6 定積分のいろいろな問題	1 6	
12	第3節 積分の応用	7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ	1 2 1 2 1 2	いろいろな関数で表される曲線で囲まれた部分の面積及び立体の体積を、定積分を用いて求める。
2		個別学力試験対策	1 2	既習内容の復習をしながら、演習形式で問題を解き、実践的な力を身につける。

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) ベクトル ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係を、ベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 ア 平面上のベクトル イ 空間座標とベクトル</p> <p>(2) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。 ア 数列とその和 イ 漸化式と数学的帰納法</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白 も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しな いようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習を すること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実な ものにしておく。</p>				
教科書・教材等	教科書・・・数学B（数研） 副教材・・・3TRIAL 数学Ⅱ+B（東京書籍）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1 ベクトル	6	ベクトルを有効線分の向きと大きさだけをに着目した量として理解する。ベクトルの相等および、和、差、実数倍などの演算を定義し、線形性に着目する。ベクトルの2方向への分解を取り上げて、さらに基本ベクトル表示、成分表示の意味を理解する。ベクトルの内積とその計算法則を理解する。また、内積を利用して、2つのベクトルのなす角、線分の長さや垂直関係を調べる。
5		2 ベクトルの演算	8	
		3 ベクトルの成分		
		4 ベクトルの内積		
6	第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル	8	位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求める。また、位置ベクトルを用いて、ベクトルに関する等式が成り立つことを示す。位置ベクトルが平面図形の性質を調べるのに有効であることを認識する。直線のベクトルによる表示を考え、その成分表示と x 、 y の1次方程式との関係を明らかにする。
		6 ベクトルの図形への応用	8	
		7 直線のベクトルによる表示	8	
7	第2章 空間のベクトル	1 空間の点	8	空間は3次元であることを実感させ、座標空間、空間ベクトルを導入する。平行六面体という立体図形を把握し、この図形を用いて、空間ベクトルの表現をする。ベクトルの成分表示、成分計算ができるようにする。空間ベクトルの内積の計算、図形的な意味を理解する。位置ベクトルについても、平面上で求めたベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解する。また、点Pが平面ABCにある条件の処理方法を学ぶ。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。
		2 空間のベクトル	8	
		3 ベクトルの成分		
8		4 ベクトルの内積		
9		5 位置ベクトル		
		6 座標空間における図形		
10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項	8	数列の第 n 項を n の式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めたりするのに有用な Σ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で Σ を活用できるようにする。 Σ を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
		2 等差数列		
	第2節 いろいろな数列	3 等差数列の和	8	
		4 等比数列		
		5 等比数列の和		
11	第3節 数学的帰納法	6 いろいろな数列の和	8	漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するということの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例にあたりながら理解する。
		7 階差数列	6	
12		8 漸化式	6	
1		9 数学的帰納法	6	
2		問題演習	6	

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	3単位												
対象学年	第2学年（進学コース）		履修形態	必修													
科目の目標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。																
学習内容の概要	<p>(1) 数列</p> <p>数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。簡単な数列$\{a_n\}$について、nとa_nとの対応関係に着目して、数列の一般項の意味を理解する。合わせて、初項、第n項、末項、項数などの基本用語を学ぶ。さらに、等差数列と等比数列を理解し、その一般項を求め、更に第n項までの和を求められるようにする。和の記号Σを導入して、数列の和をこの記号を使って表すことを学び、この記号の性質を調べる。続いて自然数の累乗の和の公式を導出して、記号Σによって、いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解する。</p> <p>さらに、ある数列については、その数列の各項の階差に着目すれば、その一般項が容易に求められることを理解する。ここでは、階差数列が等差数列や等比数列になるような簡単な数列を考察する。</p> <p>数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p> <p>(2) 統計的な推測</p> <p>確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>																
評価の観点・評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	単元テスト・小テスト		提出物・課題			独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
単元テスト・小テスト		提出物・課題															
		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫してみるのが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	<p>教科書・・・最新数学B（数研出版）</p> <p>副教材・・・3TRIAL 数学II B（数研出版編集部）</p>																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 数列 第1節 等差数列 と等比数列	1 数列と一般項	6	数列の第n項をnの式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めるのに有用な Σ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で Σ を活用できるようにする。 Σ を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
5		2 等差数列		
6		3 等差数列の和		
		4 等比数列		
		5 等比数列の和		
5	第2節 いろいろな数列	6 和の記号 Σ	8	
7 階差数列				
6	第3節 数学的帰納法	8 いろいろな数列の和	8	漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するというこの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例にあたりながら理解する。
		9 漸化式		
	10 数学的帰納法			
7	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布	8	確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえる。確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる
8		2 確率変数の期待値の分散		
9	第2節 統計的な推測	3 確率変数の和と積	8	具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。
		4 二項分布		
		5 正規分布		
10		6 母集団と標本	8	母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。推定や信頼区間の考え方がわかる。
		7 標本平均の分布		
		8 推定		
11		9 仮説検定	8	仮説検定の考え方がわかる。片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。
12		問題演習	6	
1	6			
2	8			
3	6			

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1単位												
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修													
科目の目標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。																
学習内容の概要	<p>(1) ベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。</p> <p>(2) 複素数平面 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し，複素数の計算を図形を用いて考察するとともに，図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。</p> <p>(3) 二次曲線 放物線，楕円，双曲線の定義や性質を理解し，それらを図示したり，問題の解決に活用したりできるようにする。また，離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。</p>																
評価の観点・評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	単元テスト・小テスト		提出物・課題			独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
単元テスト・小テスト		提出物・課題															
		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度をはかり，その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	<p>教科書・・・新編数学C（数研出版）</p> <p>副教材・・・3 TRIAL 数学C（数研出版編集部）</p> <p>改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C（数研出版）</p>																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等		
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間ベクトル 第3章 複素数平面	1 ベクトル	3	有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解する。ベクトルの和, 差, 実数倍の定義をもとに, それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができるベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。内積の性質を用いて, 等式を証明したり, ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。位置ベクトルを活用して, 3点が一直線上にあることを証明できる。位置ベクトルの一意性を活用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。		
5		2 ベクトルの演算	4			
6		3 ベクトルの成分				
7		4 ベクトルの内積	4			
		5 位置ベクトル				
8		6 ベクトルの図形への応用	4			
		7 図形のベクトルによる表示				
9		1 空間の点	4			
		2 空間のベクトル				
		3 ベクトルの成分				
		4 ベクトルの内積				
		5 ベクトルの図形への応用				
	6 座標空間における図形					
10	第3章 複素数平面	1 複素数平面	4	複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し, 説明できる。素数の和, 差, 実数倍の, 複素数平面における図形的意味を理解し, 説明できる。共役複素数の性質を理解し, また, それらを証明問題に利用することができる。複素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。ド・モアブルの定理を理解し, 複素数の n 乗を求めることができる。線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。		
11		2 複素数の極形式	4			
12		3 ド・モアブルの定理	3			
		4 複素数と図形				
1	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 放物線	3		軌跡の考え方をを用いて, 放物線の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて, 楕円の方程式を導くことができる軌跡の考え方をを用いて, 双曲線の方程式を導くことができる。2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え, 共有点の個数について考察できる。条件から点の座標を1つの文字で表し, それを曲線の媒介変数表示と捉えることで, その点が描く曲線を求めることができる直交座標と極座標の関係性を理解したうえで, 点の座標や方程式を相互に変換することができる。	
2		2 楕円	4			
		3 双曲線				
3		4 2次曲線の平行移動	3			
		5 2次曲線と直線				
		6 曲線の媒介変数表示				
		第2節 媒介変数表示と極座標	7 極座標と曲方程式			
			8 コンピュータの利用			

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	3単位												
対象学年	第2学年(特別進学コース理系)		履修形態	必修													
科目の目標	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。																
学習内容の概要	<p>(1) ベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し, 成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また, ベクトルの内積について理解し, 平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し, 位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また, 図形をベクトルを用いて表せることを理解し, 基本的な図形のベクトル方程式を求めたり, ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。位置ベクトルについて理解し, 位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また, 図形をベクトルを用いて表せることを理解し, 基本的な図形のベクトル方程式を求めたり, ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。</p> <p>(2) 複素数平面 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し, 複素数の計算を図形を用いて考察するとともに, 図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。</p> <p>(3) 二次曲線 放物線, 楕円, 双曲線の定義や性質を理解し, それらを図示したり, 問題の解決に活用したりできるようにする。また, 離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。</p>																
評価の観点・評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度			提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
		提出物・課題															
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し, それに従って考えを進める努力と, いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き, 別解や重要事項も記入できるように, 余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず, 授業を大切に, 積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では, 理解不十分だと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また, 問題集などを通して理解度をはかり, その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	<p>教科書・・・新編数学B (数研出版)</p> <p>副教材・・・3 TRIAL 数学B (数研出版編集部)</p> <p>改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版)</p>																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間ベクトル	1 ベクトル	9	有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解する。ベクトルの和, 差, 実数倍の定義をもとに, それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができるベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。内積の性質を用いて, 等式を証明したり, ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。位置ベクトルを活用して, 3点が一直線上にあることを証明できる。位置ベクトルの一意性を活用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。
5		2 ベクトルの演算	12	
6		3 ベクトルの成分		
7		4 ベクトルの内積	12	
8		5 位置ベクトル		
9		6 ベクトルの図形への応用	12	
10		7 図形のベクトルによる表示		
11		1 空間の点	12	
12		2 空間のベクトル		
		3 ベクトルの成分		
		4 ベクトルの内積		
			5 ベクトルの図形への応用	
		6 座標空間における図形		
	第3章 複素数平面	1 複素数平面	12	複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し, 説明できる。素数の和, 差, 実数倍の, 複素数平面における図形的意味を理解し, 説明できる。共役複素数の性質を理解し, また, それらを証明問題に利用することができる。複素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。ド・モアブルの定理を理解し, 複素数の n 乗を求めることができる。線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。
		2 複素数の極形式	12	
		3 ド・モアブルの定理	9	
		4 複素数と図形		
1	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 放物線	9	軌跡の考え方をを用いて, 放物線の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて, 楕円の方程式を導くことができる軌跡の考え方をを用いて, 双曲線の方程式を導くことができる。2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え, 共有点の個数について考察できる。条件から点の座標を1つの文字で表し, それを曲線の媒介変数表示と捉えることで, その点が描く曲線を求めることができる直交座標と極座標の関係性を理解したうえで, 点の座標や方程式を相互に変換することができる。
2		2 楕円	9	
		3 双曲線		
		4 2次曲線の平行移動		
		5 2次曲線と直線		
		6 曲線の媒介変数表示		
		7 極座標と曲方程式		
		8 コンピュータの利用		

教科名	数学	科目名	応用数学 I	単位数	3 単位												
対象学年	第 3 学年 (キャリアコース)		履修形態	必修													
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解き、就職・進学試験に対応できる学力を身につける。 ・中学数学・数学 I の既習分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 																
学習内容の概要	<p>[1] 問題演習</p> <p>中学数学・数学 I の既習分野の復習をしながら、計算力、応用力を身につける。</p> <p>数の計算 式の計算 因数分解 約数と倍数 無理数の計算 式の値 比例式 1 次方程式 連立方程式 2 次方程式 1 次不等式 2 次不等式 文章問題 1 次関数とグラフ 2 次関数とグラフ 三角比 図形 面積・体積 など</p>																
評価の観点・ 評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">定期考査</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>提出物・課題</td> </tr> <tr> <td colspan="2">単元テスト・小テスト</td> <td>独自の授業の要点・コメント</td> </tr> </table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度			提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度															
定期考査		授業態度															
		提出物・課題															
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント															
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫してみることが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>																
教科書・教材等	教科書・・・最新数学 I (数研出版)																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	3章 三角比 1節 鋭角の三角比	1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン 4 三角比の利用	9	2次関数のグラフとx軸との共有点を求めることを通して、2次方程式の解の図形的意味を理解する。2次関数のグラフと2次方程式の実数解の個数の関連について理解する。2次関数のグラフを用いて、2次不等式の解を求める。
5		5 三角比の相互関係	12	三角比の学習に必要な三平方の定理の復習をする。 タンジェントの意味を理解する。 サインとコサインの意味を理解する。
6	2節 三角比の応用	(復習問題) 1 三角形の面積 2 正弦定理	12	三角比が実際にどのように役立つかを身近な例を通して理解し、三角比の表を活用して計算できるようにする。 タンジェント、サイン、コサインの間に成り立つ関係を学ぶ。
7		3 余弦定理 4 三角比と座標	12	二辺と狭角の場合の面積公式を理解する。 正弦定理を通して三角形の3つの辺と角の間に成り立つ関係を知り、数学的な見方の良さを知る。
8		5 三角比の相互関係	12	三平方の定理の拡張となる余弦定理を通して、三角比の有用性を認識する。
9		6 鈍角の三角比と計量 (復習問題)	12	直角三角形を座標平面上に組み込むことで、鈍角に拡張できること、及びその意義を学ぶ。 鈍角になっても相互関係が成り立つことを学ぶ。
10	5章 データの分析 1節 データの分析	1 データと度数分布表 2 代表値 3 散らばりぐあいを表す値 4 分散と標準偏差	12	鈍角の場合でも正弦定理や余弦定理が使えることを知り、活用する。 データの整理の仕方、その特徴や傾向を表す方法を学ぶ。 データの特徴を1つの数値で表す。
11		5 相関関係 6 相関係数	12	データの散らばりぐあいを、中央値をもとにして、数値で表すことを学ぶ。
12		(復習問題) (演習)	9	データの散らばりぐあいを、平均値をもとにして、1つの数値で表す。
1			9	2種類のデータの関係を見る。 2種類のデータの相関関係の度合いを、1つの数値で表すことを学ぶ。
2			12	
3	数Iのまとめ		9	2年間の総まとめをして、進学・就職に向けて必要な学力を身につける。

教科名	数学	科目名	数学ⅠA発展	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B分野の、大学入試センター試験レベルの問題への対応力を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既習分野の復習をしながら、大学入試センター試験に対応する力、およびマーク式問題に対応できる力を養成する。 ・単元の内容・枠にとらわれない複合的な学習を目指す。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、3回の定期考査</p>				
学習方法	<p>問題集（解答編を事前に配布）で事前解答（予習）をして、良く理解できなかった問題をもう一度解答（復習）してみよう。いざ自分で解いてみると、どこかでつまずいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。予習・復習ともに重要である。</p> <p>授業では問題の背景・関連事項などの理解に努める。解に到る過程を説明できるように。なお、基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して見る必要がある。</p> <p>また、積極的に先生や友達に質問をして、理解していない問題を放置しないよう心がけよう。</p>				
教科書・教材等	教材 … 大学入試センター試験対策・数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 標準演習 PLAN100 数研出版編集部 編				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	演習	大学入試センター 試験対策	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手分野の克服。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。 ・ 解に到る過程を説明できるようにする。 	
5		復習を主とする 分野別演習を主とする	12		
6		方程式と不等式 2次関数 図形と計量 場合の数と確率 論理と集合	12		
7		平面図形 式と証明	12		
8		複素数と方程式	12		
9		図形と方程式 三角関数			
10		指数関数・対数関数 微分法・積分法 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	12		
		11	本番同様のセットで演習を 主とする(マークテストを主 とする)		12
12			9		
1			9		
2			個別学力試験対策		3

教科名	数学	科目名	看護入試対策（学校設定）	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学・医療）		履修形態	必修	
科目の目標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B分野の、看護入試レベルの問題への対応力を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既習分野の復習をしながら、看護入試に対応する力を養成する。 ・単元の内容・枠にとらわれない複合的な学習を目指す 				
評価の観点 ・ 評価の方法	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査			授業態度	
	単元テスト・小テスト			提出物・課題	
学習方法	<p>問題集（解答編を事前に配布）で事前解答（予習）をして、良く理解できなかった問題をもう一度解答（復習）してみよう。いざ自分で解いてみると、どこかでつまずいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。予習・復習ともに重要である。</p> <p>授業では問題の背景・関連事項などの理解に努める。解に到る過程を説明できるように。なお、基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して見る必要がある。また、積極的に先生や友達に質問をして、理解していない問題を放置しないよう心がけて欲しい。</p>				
教科書・教材等	○自主作成プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	演習	看護入試対策試験対策	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手分野の克服。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。 ・ 解に到る過程を説明できるようにする。 	
5		復習を主とする 分野別演習を主とする	8		
6		方程式と不等式 2次関数 図形と計量 場合の数と確率 論理と集合 平面図形	8		
7		式と証明 複素数と方程式 図形と方程式	8		
8		三角関数	8		
9		指数関数・対数関数 微分法・積分法			
10		平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	8		
11		本番同様のセットで演習を主とする	8		<ul style="list-style-type: none"> ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。
12			6		
1			個別学力試験対策		6
2			2		

教科名	数学	科目名	生活数学 (学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (キャリア・就職)		履修形態	必修	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	<p>第3章 非言語分野 鶴亀算、濃度算、年齢算、仕事算、水槽算、順列・組み合わせ、確率、平均の計算など</p> <p>第4章 確認テスト</p> <p>その他 食生活における計算 (塩分計算、廃棄率、買い物など) 求人票をもとに1カ月の家計簿作成 生涯のお金の収支 (ライフステージごとに必要な費用や保険について考える) 鳥取県、県外で一人暮らしをするための費用</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ・・自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付けるために主体的に学び、理解しようとしているか</p> <p>②知識・理解 ・・一般教養や論理的思考力が身に付いたか</p> <p>③技能・表現 ・・習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。</p> <p>定期考査・小テスト (単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出 (レポート・ノート等) などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>①興味・関心を持って授業に取り組む。</p> <p>②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。</p>				
教科書・教材等	<p>○自主作成プリント</p> <p>○『完全攻略新版高校生のSPI 問題集』</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	自分の強みを知る。	自己PRを考える。 社会人として必要な力とは何かを考える。	6	○社会人に必要な力について考え、実践してきたことを自分の強みとしてPRする。
5	食生活に必要な計算方法を知る。	調味料の計量 塩分濃度の計算 廃棄率の計算	8	○実生活に活かせる計算の方法を学ぶ。
6	第3章 非言語分野	鶴亀算、濃度算、年齢算 仕事算、水槽算、順列・組み合わせ、確率、平均の計算など	8	○就職試験に課される問題を想定し、何度も問題を解く。 ○仕事をする上で必要となる基本的な計算能力や、データをもとに将来を予測する能力、論理的な思考能力を高める。
7			8	
8 9			8	
10	求人票をもとに、1カ月の家計の収支を考える。	1人暮らしに必要な経費を調べる。	8	○家計簿の付け方を知り、一人暮らしを想定して収支計算を行う。
11	自分の将来を想像し、生涯の収支を考える。	ライフステージごとに必要な費用を調べる。 計画的な貯蓄について考える。 保険の種類や費用を調べる。	8	○将来を見据え、収支のバランスを考えた消費生活を送ることができるように意識を持つ。
12			6	
1	県内、県外での生活を比較する。	県内、県外での一人暮らしを想定し、収支の差を考える。	6	○教育費や住宅費などを調べ、鳥取県で暮らす魅力を知る。
2			6	

教科名	理科	科目名	生物	単位数	4単位
対象学年	第3学年（特別進学コース）		履修形態	選択	
科目の目標	生物や生命現象についての観察、実験などを行い、生物学的に探究する態度と能力を育てるとともに、2年生での内容を継続して学習し、重要な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 遺伝子を扱う技術 遺伝子を扱う技術とその仕組みについて学習し、その恩恵と課題について理解する。</p> <p>(2) 生物の環境応答 刺激の受容・伝達方法を学習し、動植物の動きの原理を理解する。</p> <p>(3) 生態と環境 生物を集団のレベルでとらえて生物と環境との係わり合いについて理解し、環境問題とからめて自然界における生物集団についての見方や考え方を身につける。</p> <p>※後期からは主に大学入試に向けた演習を行う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は生物への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いて大学入試問題・センター試験対応の問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物」(東京書籍)</p> <p>問題集 「新課程 ニューアチーブ生物」(東京書籍)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	遺伝子を扱う技術	遺伝子を扱う技術の光と影	12	クローン技術や iPS 細胞、ゲノム編集など、身近で利用されている技術の恩恵と課題について理解する。
5	生物の環境応答	動物の反応と行動	16	刺激の種類とその受容方法そして受容後の行動について理解する。
		植物の環境応答		植物の環境に対する応答について理解する。
6	生態と環境	個体群とその変動	16	個体群の性質とその内外の関係について学習する。
		生態系とエネルギーの流れ		生態系でのエネルギー・炭素・窒素などの流れと、地球環境の保全を考える。
7	生物の進化と系統	生物の進化	16	生命の誕生から人類の出現までの流れについて学習する。
8		進化のしくみ		生物の内外両面から様々な進化のしくみについて学習する。
9		進化の系統	16	系統に基づく生物種の分類方法について学習する。
	問題演習			大学入学共通テストに対応する基礎を固め、大学個別試験などの応用問題に対する力を養う。
10			16	
11			16	
12			12	
1			12	
2			16	

教科名	理科	科目名	化学	単位数	4単位
対象学年	第3学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 物質の状態 気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>(2) 物質の変化 化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>(3) 無機物質： 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>(4) 有機化合物： 有機化合物を構造の特徴により分類し、性質や反応がその構造と密接に関係していることを個々の化合物を通して学ぶ。</p> <p>(5) 天然有機化合物： 糖・アミノ酸・タンパク質・核酸・酵素について学ぶ。</p> <p>(6) 合成高分子化合物： 代表的な高分子化合物の構造・性質・特徴・分類を学ぶ。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は以下の4項目とする 項目1：化学への関心・意欲・態度 項目2：思考・判断・表現 項目3：技能、 項目4：知識・理解</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「新編 化学」(数研出版) 問題集 「新課程 リードLight ノート化学」(数研出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	化学反応の速さとしくみ	反応の速さと濃度, 圧力・温度との関係を学ぶ。	12	反応速度について理解し, それを算出できるようになる。触媒のはたらきについて理解する。
5	化学平衡	ルシャトリエの原理, 平衡定数について学ぶ。	16	可逆反応と不可逆反応, 化学平衡を理解する。平衡定数を理解し量的関係の算出を学ぶ。
	非金属元素	非金属元素の性質や用途を学ぶ。		
6	金属元素 (I)	金属元素の性質や用途を学ぶ。	16	典型元素と化合物について, 性質や用途を学ぶ。元素を周期表にもとづいて分類し, 単体や化合物の性質を広く学ぶ。金属元素は元素全体の8割を占め, 非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目して学習する。遷移元素はすべて金属で, たがいに性質がある程度似ているので, 族の分類とは関係なく学ぶほうが現実的である。単体や化合物, イオンなど特徴的な性質をもつものが多く, 身近な元素を主体に学ぶ。
	金属元素 (II)	遷移元素と化合物について, 性質や用途を学ぶ。		
7	有機化合物の分類と分析	有機化合物の特徴と分類, 分析について学ぶ。	16	有機化合物の成分元素, 基本構造, 有名分子の名称と性質, 用途を学ぶ。3つの分類〔C原子の結合(直鎖と側鎖)・飽和と不飽和・ベンゼン環の有無〕と構造異性体立体異性体(幾何異性体・光学異性体)を理解する。官能基・構造・製法と置換・付加・脱水と系統理解。アルコールとエーテルの関係に代表される異性体理解。縮合・エステル・加水分解・けん化など反応の理解。代表的な芳香族化合物の製法と系統理解。エステル化アセチル化・ジアゾ化・カップリング反応の理解。定性反応による有機化合物の特定と混合液の分離。
8	脂肪族炭化水素	飽和炭化水素, 不飽和炭化水素について学ぶ。	16	
9	アルコールと関連物質	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン。		
10	芳香族化合物	ベンゼンを出発点とする関連芳香族化合物について学ぶ。	16	糖とタンパク質について名称・構造・用途の理解。糖類・タンパク質と分解酵素の関係を学ぶ。熱可塑性樹脂(プラスチック)と熱硬化性樹脂を理解し機能性ポリマーの活用例や可能性を学ぶ。
	天然有機化合物	天然有機化合物の種類について学ぶ。		
11	天然高分子化合物	糖類とタンパク質について学ぶ。	16	
	高分子化合物の性質合成高分子化合物	高分子化合物の構造と性質を学ぶ 合成繊維・合成樹脂について学ぶ。		
12	演習	入試問題や演習問題に取り組む。	12	進路実現をめざして大学入学共通テストや個別の大学入試問題をはじめ医療系・看護系など理系入試問題に取り組み学習内容の定着と応用力を養い, 受験学力を養成する。
1			12	
2			12	
3				

教科名	理科	科目名	物理	単位数	4単位
対象学年	第3学年（特別進学コース理系）		履修形態	選択	
科目の目標	物理基礎で学習した内容も含め、身近な物理的現象や事物をさらに詳しく探求し、新たな原理や法則の理解を深めるとともに、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 波動 水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p> <p>(2) 電気と磁気 電気や磁気に関する現象を観察・実験などを通して探求し、電気や磁気に関する基本的な概念や原理・法則について系統的に理解を深め、それらを様々な電磁気現象に応用して考察する。</p> <p>(3) 原子 物質と原子に関する現象について、物質の物理的性質が原子や分子などの現象によりもたらされることを理解し、固体の性質を電子の状態と関連付けて考察する。また、光や電子の波動性と粒子性、原子や原子核、素粒子における現象について、量子的考えなど基本的な概念や原理・法則を理解する。</p> <p>※教科書内容は前期で終え、後期は大学入試に向けた演習を行う。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は、物理への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・プリント等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いて大学入試問題・センター試験対応の問題演習等。運動、電気、熱等に関する演習実験。				
教科書・教材等	<p>教科書 「物理」(東京図書)</p> <p>問題集 「三訂版 リードLight ノート物理」(数研出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	波動	波の性質 音波 光の性質	15	正弦波、波の伝わり方、音の伝わり方、ドップラー効果、光の性質、レンズと鏡、光の回折と干渉
5	電場と電位	電場 電位 コンデンサー	19	クーロンの法則、電気量保存の法則、電場ベクトル、電気力線などを理解し、コンデンサーの働きと電気容量を学ぶ。
6	電流	電流と抵抗 直流回路 半導体	19	オーム・ジュールの各法則、直流回路、電流計と電圧計の構造、キルヒホッフの法則を理解する。
7	電流と磁場	磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	19	磁石や磁気の性質を理解し、電気と磁気の関係を理解する。
8 9	電磁誘導と交流	電磁誘導 交流 電磁波	19	磁場の中での導線の起電力、コンデンサーとコイルの電気振動による電磁波の発生の現象を考える。
1 0	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	19	電子の比電荷、電気素量、電子の波動性 X線回折、半導体の性質等を理解する。 光電効果と光量子説との関連、X線発生の原理、粒子と波動の二重性を理解し、ラザフォードの原子模型とボーアの理論により原子の構造と特徴を考える。
1 1	原子と原子核	原子の構造 原子核と放射線 核反応とエネルギー 素粒子と宇宙	19	原子核の構成、同位体、原子核の崩壊と放射線との関係、核の分裂・融合とエネルギーの変化について考える。
	問題演習		15	素粒子と宇宙の始まりを理解する。
1 2				*進路に応じた問題演習を行い、入試に必要な基礎力および応用力を養う。
1				
2				
3				

教科名	理科	科目名	応用化学基礎(学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年(特別進学コース文系)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、化学的に探究する力を養うとともに、物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 化学と人間生活 日常生活や社会を支える身近な物質を調べ、物質や元素について理解する。</p> <p>(2) 物質と化学結合 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。</p> <p>(3) 物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用いた上級学校の受験にむけた問題演習等。 ICT機器の活用および、視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(数研出版) 問題集 「ビーライン化学基礎」(第一学習社)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	【物質の構成と化学結合】 物質の構成 物質の構成粒子	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動	1 1 1	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
5		原子とその構造	2	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。
6	粒 子 の 結 合	イオン 周期表	3 2	イオンの成り立ち、性質を学ぶ。 周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7		イオン結合とイオンからなる物質 分子と共有結合 分子の極性 共有結合の物質 金属結合と金属	3 3 2 3 3	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8	【物質の変化】 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量	3	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。
9		物質質量 化学反応式と物質質量	3 3	物質質量とその応用を理解する。 化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
10	酸と塩基の反応	酸と塩基 水の電離と水溶液のpH 中和反応 塩・中和滴定実験	2 2 2 2	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
11		酸化と還元 酸化・還元と酸化数 酸化剤・還元剤 金属のイオン化傾向	1 3 2 2	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
12	進路対策	酸化還元反応と日常生活 電気分解と金属の精錬	1 1	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
1 2 3				進路に応じた演習に取り組み、進路実現に必要な基礎力および応用力を養う。

教科名	理科	科目名	応用化学基礎 (学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、化学的に探究する力を養うとともに、物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習内容の概要	<p>※2年次の学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 化学と人間生活 日常生活や社会を支える身近な物質を調べ、物質や元素について理解する。</p> <p>(2) 物質と化学結合 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。</p> <p>(3) 物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。 視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(東京書籍) 問題集 「新インプレス化学基礎ノート」(浜島書店)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	2年の復習	2年の復習	6	2年の復習
5	【物質の構成と化学結合】 物質の構成	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動	1 1 1	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
	物質の構成粒子	原子とその構造	2	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。
6		イオン 周期表	3 2	イオンの成り立ち、性質を学ぶ。 周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	イオン結合とイオンからなる物質 分子と共有結合 分子の極性	3 3 2	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8		共有結合の物質	3	
9		金属結合と金属	3	
10	【物質の変化】 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質質量 化学反応式と物質質量	3 3 3	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。 化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
11	酸と塩基の反応	酸と塩基 水の電離と水溶液のpH 中和反応 塩・中和滴定実験	2 2 2 2	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12		酸化と還元 酸化・還元と酸化数 酸化剤・還元剤 金属のイオン化傾向 酸化還元反応と日常生活 電気分解と金属の精錬	1 3 2 2 1 1	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
1	進路対策			進路に応じた演習に取り組み、進路実現に必要な基礎力および応用力を養う。
2				
3				

教科名	理科	科目名	応用化学基礎 (学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (キャリアコース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、化学的に探究する力を養うとともに、物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習内容の概要	<p>※2年次の学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 化学と人間生活 日常生活や社会を支える身近な物質を調べ、物質や元素について理解する。</p> <p>(2) 物質と化学結合 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。</p> <p>(3) 物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い受験にむけた問題演習等。 視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(東京書籍) 問題集 「新インプレス化学基礎ノート」(浜島書店)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	2年の復習	2年の復習	6	2年の復習
5	【物質の構成と化学結合】 物質の構成	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動	1 1 1	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
	物質の構成粒子	原子とその構造	2	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。
6		イオン 周期表	3 2	イオンの成り立ち、性質を学ぶ。 周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	イオン結合とイオンからなる物質 分子と共有結合 分子の極性	3 3 2	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8		共有結合の物質	3	
9		金属結合と金属	3	
10	【物質の変化】 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質質量 化学反応式と物質質量	3 3 3	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。 化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
11	酸と塩基の反応	酸と塩基 水の電離と水溶液のpH 中和反応 塩・中和滴定実験	2 2 2 2	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12		酸化と還元 酸化・還元と酸化数 酸化剤・還元剤 金属のイオン化傾向 酸化還元反応と日常生活 電気分解と金属の精錬	1 3 2 2 1 1	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
1	進路対策			進路に応じた演習に取り組み、進路実現に必要な基礎力および応用力を養う。
2				
3				

教科名	理科	科目名	応用生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、生物学的に探究する力を養うとともに、生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
学習内容の概要	<p>※1年次の学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞の構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギー（ATP）と代謝について理解する。遺伝物質であるDNAの特徴を理解する。</p> <p>(2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「新編 生物基礎」(東京書籍) 問題集 「ビーライン生物基礎」(第一学習社)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	6	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
	生物とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。		生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
5	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。		体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
6	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
	体内環境と恒常性	ヒトの体の調節の仕組みを理解する。		循環系とその働き、腎臓や肝臓の働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
7	神経系と内分泌による調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
8	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	8	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
9	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。		さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
10	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	8	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。
11	進路対策		6	進路に応じた演習に取り組み、進路実現に必要な基礎力および応用力を養う。
12			6	
1			6	
2				
3				

教科名	理科	科目名	応用生物基礎 (学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (進学コース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、生物学的に探究する力を養うとともに、生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
学習内容の概要	<p>※1年次の学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギー (ATP) と代謝について理解する。遺伝物質である DNA の特徴と働きを理解する。</p> <p>(2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「新編 生物基礎」(東京書籍) 問題集 「基本新ステップノート生物基礎」(浜島書店)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	1年次の復習	1年次の復習	6	1年次の復習	
5	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	4	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。	
6	生物とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	4	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。	
	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	4	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。	
7	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	4	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。	
	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	4	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。	
8	体内環境と恒常性	ヒトの体の調節の仕組みを理解する。	8	循環系とその働き、腎臓や肝臓の働きなどで、ヒトの体内環境が保たれていることを理解する。	
	神経系と内分泌による調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。	
9	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。	
10	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。	
11	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。	
12					
1					

教科名	理科	科目名	応用生物基礎 (学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (キャリアコース)		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、生物学的に探究する力を養うとともに、生物や生物現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
学習内容の概要	<p>※1年次の学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギー (ATP) と代謝について理解する。遺伝物質である DNA の特徴と働きを理解する。</p> <p>(2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の3項目とする。この3点について3段階(A・B・C)で評価し、3観点の評価から総合的に評定する。</p> <p>評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「新編 生物基礎」(東京書籍) 問題集 「基本新ステップノート生物基礎」(浜島書店)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	1年次の復習	1年次の復習	6	1年次の復習	
5	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	4	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。	
6	生物とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	4	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。	
	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	4	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。	
7	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	4	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。	
	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	4	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。	
8	体内環境と恒常性	ヒトの体の調節の仕組みを理解する。	8	循環系とその働き、腎臓や肝臓の働きなどで、ヒトの体内環境が保たれていることを理解する。	
	神経系と内分泌による調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。	
9	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。	
10	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。	
11	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。	
12					
1					

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第3学年 全クラス		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <p>① 集団行動</p> <p>② 体づくり運動</p> <p>③ 球技</p> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <p>① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴</p> <p>② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物</p> <p>② 思考・判断（表現・創造）・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力</p> <p>③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単元の実技テスト・自己評価</p> <p>評価は、各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	教師主導による一斉授業とし、実技を中心とした学習。 グループ学習。（場合によっては習熟度別学習を行う）				
教科書・教材等	『現代保健改訂版ノート』（大修館書店） マイ・スポーツ2010（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
5	体づくり運動	トレーニング・ストレッチ体操・徒手体操	4	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立てて実生活に役立てる。
6	新体力テスト	全9種目	7	正しい測定の方法を理解し、安全に留意してできるようにする。自己の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持ち実践できるようにする。
	長距離	ペース走・駅伝	8	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わう。
7	球技	バドミントン	12	状況に応じたシャトルの操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。
9				バレーボール
10		校内体育大会種目練習	(バレー、ドッジボール、大縄)	10
11				体力増進とともに、安全に気を配りながら運動を行うことができる。
12		卓球	12	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。
1				
2		バスケットボール	12	
3				

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4単位								
対象学年	第3学年（特別進学コース・文系）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> 関心・意欲・態度の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習の取り組み ・提出物 表現力の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ・本文を元にしたリテリング ・既習の言語材料を使つてのライティング 知識・理解の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1～2年次の既習事項を確認しながら、重要な語句および文法事項を理解する。 2. 内容の展開に注意しながら音読をすることで、速読力を高める。 3. ペアワークによるQAなどの活動を通じて、相手に伝える力と聞き取る力を養う。また、各課ごとに本文を元にしたリテリングを行い、スピーキング力を高める。 4. 各課ごとに単元テストを行い、既習事項の定着度を確認する。 5. 大学入学共通テストに対応できるよう、実戦的な問題演習に取り組む。 												
教科書・教材等	Power On Communication III（東京書籍） 総合英語 One（アルク） 共通テストドリル 英語 リーディング10 minutes（Z会） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク）												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Library of the Future	12	日本の最近の図書館とニューヨーク公共図書館についての新聞記事 現在分詞の分詞構文、関係副詞 where
	Lesson 2	History Maker Otani Shojei		メジャーリーガー大谷翔平選手の人物伝
5	Lesson 3	Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animal	16	動物の歯科医の仕事についての科学記事 現在完了進行形、be 動詞+to 不定詞 比較表現、S+V (使役) +O+C (原形不定詞)
	Lesson 4	Nature Photographer in Alaska		写真家の松本紀生さんの半生や作品についての雑誌記事
6	Lesson 5	A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	16	関係代名詞非制限用法、関係代名詞 what、分詞構文 イグ・ノーベル賞を受賞した研究についての ALT による学級だより SVOC、過去完了進行形、受け身
	Lesson 6	Where Does Halloween Come from?		日本でのハロウィーンの起源や歴史についての論説文
7	Lesson 7	Will 3D Printing Technology Change the World?	16	ディスコースマーカー「追加」 3D プリント技術の使用例や今後の課題などについての科学記事 事実と意見
8				
9		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
10		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
11		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
12		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
1		私大・二次試験対策	12	大学入試過去問を用いた問題演習
2		私大・二次試験対策	12	大学入試過去問を用いた問題演習

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4単位								
対象学年	第3学年（特別進学コース・理系）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習の取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を元にしたリテリング ・既習の言語材料を使つてのライティング <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1～2年次の既習事項を確認しながら、重要な語句および文法事項を理解する。 2. 内容の展開に注意しながら音読をすることで、速読力を高める。 3. ペアワークによるQAなどの活動を通じて、相手に伝える力と聞き取る力を養う。また、各課ごとに本文を元にしたリテリングを行い、スピーキング力を高める。 4. 各課ごとに単元テストを行い、既習事項の定着度を確認する。 5. 大学入学共通テストに対応できるよう、実戦的な問題演習に取り組む。 												
教科書・教材等	Power On Communication III（東京書籍） 総合英語 One（アルク） 共通テストドリル 英語 リーディング10 minutes（Z会） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク）												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Library of the Future	12	日本の最近の図書館とニューヨーク公共図書館についての新聞記事 現在分詞の分詞構文、関係副詞 where
	Lesson 2	History Maker Otani Shojei		メジャーリーガー大谷翔平選手の人物伝
5	Lesson 3	Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animal	16	動物の歯科医の仕事についての科学記事 現在完了進行形、be 動詞+to 不定詞 比較表現、S+V (使役) +O+C (原形不定詞)
	Lesson 4	Nature Photographer in Alaska		写真家の松本紀生さんの半生や作品についての雑誌記事
6	Lesson 5	A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	16	関係代名詞非制限用法、関係代名詞 what、分詞構文 イグ・ノーベル賞を受賞した研究についての ALT による学級だより SVOC、過去完了進行形、受け身
	Lesson 6	Where Does Halloween Come from?		日本でのハロウィーンの起源や歴史についての論説文
7	Lesson 7	Will 3D Printing Technology Change the World?	16	ディスコースマーカー「追加」 3D プリント技術の使用例や今後の課題などについての科学記事 事実と意見
8				
9		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
10		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
11		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
12		共通テスト対策	16	予想問題を用いた問題演習
1		私大・二次試験対策	12	大学入試過去問を用いた問題演習
2		私大・二次試験対策	12	大学入試過去問を用いた問題演習

教科名	英語	科目名	論理・表現Ⅲ	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、目的や場面、状況などに応じて、多様な語句や文を適切に用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え、相手を説得することができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、相手を説得することができるよう、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、相手を説得することができるよう、書いて伝えることができる。 				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「やり取り」「発表」「書くこと」の3領域の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通じて、本物のコミュニケーション力を育成する。 2. 失敗することを恐れず、発信する態度を養う。 3. 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む。 4. ICT機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 <p>評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 2. Model の内容理解を確認する。(知識・技能、思考・判断・表現) 3. Make Your Own への取り組みを評価する。(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 4. 小テスト、定期考査(知識・理解) 5. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 2. 英語での発信に、ペアやグループで取り組むことで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 3. 語彙や表現の支援をしながら、言語活動が「自分ごと化」するように促す。 4. 各課の最終タスクにおいて「やり取り」「発表」「書くこと」を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 5. 文法問題の演習を通じて、学習した表現の運用に必要な文法力を身につける。 				
教科書・教材等	<p>NEW FAVORITE English Logic and Expression III（東京書籍） NEW FAVORITE English Logic and Expression III WORKBOOK（東京書籍） 共通テストドリル英語リスニング 10 minutes 改訂第3版（Z会） 総合英語 One（アルク） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	英語でよりよく表現するには	音の脱落・連結・同化の例, リズム	6	音の脱落や連結, 同化という現象や書くときに注意すべきことを理解している。
5	Lesson 1 食糧問題についてディスカッションする	日本の食糧問題についてのディスカッション	8	議論する, 提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。
6	Lesson 2 メールで近況を伝える	留学時のホストマザーのビデオレターにメールで返事を書く	8	個人的なことについて書く, 気持ちを伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
7	Lesson 3 学校新聞でアドバイスする	自らの将来の夢を交えながら, 後輩へのアドバイスを書く	8	助言する, 行動を促すときの表現の形・意味・用法を理解している。
8	Lesson 4 宇宙についてスピーチする	火星移住プロジェクトについて反対意見を述べるスピーチ	8	主張する, 仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。
9	Lesson 5 イベントなどを説明する	「シャークウィーク」について書く	8	基本情報を伝える, 詳細を伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
10	Lesson 6 理想の場所や時間を描写する	理想の家について書く	8	見た目を描写する, イメージを伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
11	Lesson 7 日本の観光をプレゼンテーションする	観光旅行先として日本をアピールするプレゼンテーション	8	特長を説明する, 説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。
12	Lesson 8 趣味について書く	ベーシストがベースを始めたきっかけとその後について書く	6	できごとについて物語る, 読み手をひきつけるときの表現の形・意味・用法を理解している。
1	Lesson 9 物事を分析して評論する	テレビコマーシャルについて書く	6	分析する, 評論するときの表現・意味・用法を理解している。
2	Lesson 10 学習環境についてディベートする	オンライン授業についてのディベート	6	立論する。反駁する, 意見をまとめて再主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。

教科名	英語	科目名	論理・表現Ⅲ	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、目的や場面、状況などに応じて、多様な語句や文を適切に用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え、相手を説得することができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、相手を説得することができるよう、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、相手を説得することができるよう、書いて伝えることができる。 				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「やり取り」「発表」「書くこと」の3領域の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通じて、本物のコミュニケーション力を育成する。 2. 失敗することを恐れず、発信する態度を養う。 3. 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む。 4. ICT機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 <p>評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 2. Model の内容理解を確認する。(知識・技能、思考・判断・表現) 3. Make Your Own への取り組みを評価する。(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 4. 小テスト、定期考査(知識・理解) 5. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 2. 英語での発信に、ペアやグループで取り組むことで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 3. 語彙や表現の支援をしながら、言語活動が「自分ごと化」するように促す。 4. 各課の最終タスクにおいて「やり取り」「発表」「書くこと」を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 5. 文法問題の演習を通じて、学習した表現の運用に必要な文法力を身につける。 				
教科書・教材等	<p>NEW FAVORITE English Logic and Expression III（東京書籍） NEW FAVORITE English Logic and Expression III WORKBOOK（東京書籍） 共通テストドリル英語リーディング 10 minutes 改訂第3版（Z会） 総合英語 One（アルク） 夢をかなえる英単語 新ユメタン1（アルク）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	英語でよりよく表現するには	音の脱落・連結・同化の例, リズム	6	音の脱落や連結, 同化という現象や書くときに注意すべきことを理解している。
5	Lesson 1 食糧問題についてディスカッションする	日本の食糧問題についてのディスカッション	8	議論する, 提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。
6	Lesson 2 メールで近況を伝える	留学時のホストマザーのビデオレターにメールで返事を書く	8	個人的なことについて書く, 気持ちを伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
7	Lesson 3 学校新聞でアドバイスする	自らの将来の夢を交えながら, 後輩へのアドバイスを書く	8	助言する, 行動を促すときの表現の形・意味・用法を理解している。
8	Lesson 4 宇宙についてスピーチする	火星移住プロジェクトについて反対意見を述べるスピーチ	8	主張する, 仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。
9	Lesson 5 イベントなどを説明する	「シャークウィーク」について書く	8	基本情報を伝える, 詳細を伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
10	Lesson 6 理想の場所や時間を描写する	理想の家について書く	8	見た目を描写する, イメージを伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。
11	Lesson 7 日本の観光をプレゼンテーションする	観光旅行先として日本をアピールするプレゼンテーション	8	特長を説明する, 説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。
12	Lesson 8 趣味について書く	ベーシストがベースを始めたきっかけとその後について書く	6	できごとについて物語る, 読み手をひきつけるときの表現の形・意味・用法を理解している。
1	Lesson 9 物事を分析して評論する	テレビコマーシャルについて書く	6	分析する, 評論するときの表現・意味・用法を理解している。
2	Lesson 10 学習環境についてディベートする	オンライン授業についてのディベート	6	立論する。反駁する, 意見をまとめて再主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。

教科名	外国語	科目名	論理表現Ⅱ	単位数	3単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、日常的な話題や社会的な話題について多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝え合う能力を養う。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな場面のダイアログやモノログを聞き、英語表現を学ぶ。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学びながら、語彙を増やす。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 <p>(2) 思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。 5 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 6 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 				
教科書・教材等	<p>Amity English Logic and Expression II（開隆堂） 準拠 ワークブック 補助プリント 夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	LESSON 1	私の部活動	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ There is 構文 ・ be 動詞, 一般動詞の現在形 	
	LESSON 2	スポーツを楽しもう		<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞, 一般動詞の過去形 	
5	LESSON 3	興味があるのは …	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在／過去進行形 	
	LESSON 4	星空を眺めて		<ul style="list-style-type: none"> ・ 未来を表す表現としての現在形／現在進行形 	
	LESSON 5	マナーにご注意！		<ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞 can / may 	
6	LESSON 6	SNS との付き合い方	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞 must / should 	
	LESSON 7	楽しみなイベント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 完了形 (完了／経験) 	
	LESSON 8	暑すぎる夏に		<ul style="list-style-type: none"> ・ 完了形(継続) ／完了進行形 	
7・8	LESSON 9	熱中症対策を！	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け身 (基本形) ／ (完了形・助動詞を伴う形) 	
	LESSON 10	クリーンエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較級／最上級 	
	LESSON 11	投票に行こう		<ul style="list-style-type: none"> ・ 同等比較／倍数比較 	
9	LESSON 12	1冊の本, 1本のペン	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動名詞 	
	LESSON 13	平等な教育を求めて		<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞 (名詞的用法) ／ It is ~ to do 構文 	
	LESSON 14	パラスポーツの魅力		<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞 (副詞的／形容詞的用法) 	
10	LESSON 15	美しい海を守ろう	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在／過去分詞 (形容詞的用法) 	
	LESSON 16	特別なチョコレート		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞 who / which 	
	LESSON 17	フェアトレード		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞 what / 非制限用法 	
11	LESSON 18	世界の子どもたち	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係副詞 where / when / why / how 	
12	LESSON 19	こんにちは, AI	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮定法過去／過去完了 	
1	LESSON 20	異文化理解のために	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続詞 that / if / whether / if / because / although 	
2			9		

教科名	英語	科目名	コミュⅡ活用	単位数	3単位
対象学年	第3学年（キャリアコース）		履修形態	学校設定	
科目の目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 (2) 思考・表現・判断 ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査				
学習方法	1. 各課で取り扱う題材について、背景資料などを用いて興味・関心を深める。 2. 本文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3. 音声教材を用い、ネイティブスピーカーの発音、イントネーション、スピードに慣れ、リスニング力を高める。 4. 発音やイントネーションを意識しながら音読練習を行う。また、ペアワークによる音読を通して、相手に伝える力と聞き取る力を養う。 5. 各課ごとに本文の内容をリテリングする簡単な発表を行う。 6. 各課ごとに単元テストを行ない、既習事項の定着度を確認する。 7. ワークブックを活用し、予習・復習の習慣化を図る。 8. 各課ごとにノートおよびワークブックを確認する。				
教科書・教材等	All Aboard! English Communication I（東京書籍） All Aboard! English Communication I WORKBOOK（東京書籍） 夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Warm-Up 1~3 Pre-Lesson 1,2 Communication 1	Lesson に入る前のウォームアップ 自己紹介	9	英語の音、アルファベット、表現に慣れる Be 動詞と一般動詞／否定文と疑問文 自己紹介をする
5	Lesson 1	This Is My House 世界の家	12	世界の家についての紹介を通してその特徴を学習する 過去形
6	Lesson 2	My Favorite Hero 錦織 圭	12	人物の背景や魅力について学習する 進行形：(be 動詞+動詞の -ing 形)
7	Lesson 3	Cool Culture from Japan 世界に羽ばたく日本文化 道案内	12	日本のマンガについての会話を通して日本のマンガや文化がどのように世界に広がっているかを学習する 助動詞：can, will
8	Communication 2		12	道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で道案内したり、道順を尋ねたりする
9	Lesson 4	A Miracle Mirror 夢のような絶景	12	絵画の観光地について書かれたメールを通してその魅力について学習する to 不定詞：(to+動詞の原形)
10	Lesson 5	Finding My Future それぞれの夢	12	高校生の夢や目標について知り、自分の将来について考える 動名詞：(動詞の -ing 形)
10	Reading 1	Short Stories in English	12	3つのショートストーリーを読み、それぞれの場面や心情を読み取ってユーモアを理解する
11	Lesson 6	A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	12	江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える 受け身：(be 動詞+過去分詞)
11	Lesson 7	Living on Ice コウテイペンギンの世界	12	絶滅の危機に直面しているコウテイペンギンについての説明文を読み、地球温暖化の影響について考える 現在完了形：(have [has]+過去分詞)
12	Lesson 8	Building Trust in Space 若田 光一	9	国際宇宙ステーションの船長となった若田光一さんについての情報を読み、船長の重要な職務に対する若田さんの考えを学ぶ It の用法
1	Lesson 9	Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	9	第二次世界大戦後の沖縄の惨状とそれを救おうとしたハワイの沖縄出身の日系アメリカ人について学ぶ 関係代名詞：who
1	Communication 3	乗り換え案内	9	電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて英語で尋ねたり、案内したりする
2	Lesson 10	I Am Malala すべての子供に教育を	12	学校で教育を受ける権利を求めて立ち上がった少女マララさんと彼女の考えについて学ぶ 比較表現：形容詞の原級・比較級・最上級
3	Reading 2	Alone	9	仲良しのガマ君 (Toad) とカエル君 (Frog) の友情についての物語を読み、場面や心情を読み取る

教科名	英語	科目名	看護入試対策	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	選択	
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 書いたり話したりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 英検や看護系の入学試験に必要な文法事項を理解している。 				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 中学～高校基礎レベルの文法事項を確認する。 学んだことをもとにして、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の育成を意識しながら問題演習を行う。 ICT機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声を活用した学習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用する技能を身につけている。 思考・判断・表現 学習した語彙、表現、文法を用いて、簡潔な言い回しで自分の考えを書いたり話したりできる。 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 <p>評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本文の内容理解を確認する。（知識・技能、思考・判断・表現） 演習問題への取り組みを評価する。（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 小テスト、定期考査（知識・理解） 教材の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 ペアワークを取り入れることで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 ウェブサイト音声データを用いて、音声としての英語に慣れる。 「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能活動を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 ワークシートを用いて、学習内容の定着を図る。 				
教科書・教材等	プレップイングリッシュ [4訂版] 高校英語の基礎づくり（旺文社） ウェブサイト音声データ ワークシート				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本語と英語のちがい① 日本語と英語のちがい② 日本語と英語のちがい③		6	
5	EXERCISE 1 1～4 EXERCISE 2 5～6 EXERCISE 3	英検・看護系入試対策	8	this と that／人称代名詞／形容詞と副詞 am/is/are/be 動詞の疑問文・否定文／前置詞／There is/are
6	Let's Try! ① 9～12 EXERCISE 4 13～16 EXERCISE 5	英検・看護系入試対策	8	一般動詞の肯定文／一般動詞の疑問文・否定文 命令文／be 動詞の過去形／be 動詞の過去形の疑問文・否定文
7	Let's Try! ②		8	
8	17～20 EXERCISE 6 21～24 EXERCISE 7	英検・看護系入試対策	8	一般動詞の過去形／一般動詞の過去形の疑問文・否定文 疑問詞①／進行形の作りかた／進行形の否定文・疑問文
9	Let's Try! ③ 25～28 EXERCISE 8 29～32 EXERCISE 9	英検・看護系入試対策	8	未来を表す will/be going to／助動詞①／助動詞の否定文・疑問文 be able to と have to／Will you ～?など／助動詞②／疑問詞②
10	Let's Try! ④ 33～36 EXERCISE 10 37～40 EXERCISE 11	英検・看護系入試対策	8	現在完了形／現在完了形の疑問文・否定文／現在完了の3つの用法 受動態／受動態の疑問文・否定文／熟語など
11	Let's Try! ⑤ 41～44 EXERCISE 12 45～48 EXERCISE 13	英検・看護系入試対策	8	関係代名詞－主格／関係代名詞－目的格／関係代名詞－所有格 現在分詞・過去分詞／分詞の修飾用法／接続詞①／接続詞②
12	Let's Try! ⑥ 49～52 EXERCISE 14	英検・看護系入試対策	6	不定詞の名詞的用法／不定詞の形容詞的用法／不定詞の副詞的用法
1	53～56 EXERCISE 15 Let's Try! ⑦	英検・看護系入試対策	6	動名詞／動名詞を好む動詞／動名詞と不定詞で意味が異なる動詞／イディオム
2	57～60 EXERCISE 16 Let's Try! ⑧	英検・看護系入試対策	6	形容詞と副詞の比較級・最上級／more と most を使う比較級・最上級/as～as

教科名	外国語	科目名	英語活用	単位数	2単位
対象学年	第3学年(進学・キャリアコース グローバル)		履修形態	選択	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、世界の様々な文化や話題について興味を持ち、理解しようとする姿勢を育む。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな話題について書かれた英文を読み、その背景も含めて理解に努める。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学び、演習問題にも取り組むことによって応用力を身につける。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 <p>(2) 思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、4回の定期考査</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。 5 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 6 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 				
教科書・教材等	<p>Amity II English Communication (開隆堂)</p> <p>Amity I English Logic and Expression (開隆堂)</p> <p>夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr. (アルク)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	Amity II (コミ) Lesson10	The Culture of Selfies	6	自撮り文化の始まりについて 関係代名詞 (制限用法・非制限用法)	
5	Lesson11	Finland	8	フィンランドと私たちの生活との関わり 関係副詞	
6	Lesson12	In Order to Live a Happy Life	8	社会で活躍し、幸せな人生を送るために必要なこと 仮定法	
7	READING	Cremona	8	バイオニリストのクレモナでの活躍	
8					
9	Amity I (論表) Lesson12 Lesson13	アイドル最高 備えあれば・・・	8	動名詞 不定詞①	
10	Lesson14 Lesson15	何に使うもの？ あの子は誰？	8	不定詞② 分詞	
11	Lesson16 Lesson17 Lesson18	工場見学に行こう あの日の思い出 おすすめの旅行先	8	関係代名詞① 関係代名詞② 関係副詞	
12	Lesson19 Lesson20	もしも私が・・・ お出かけするなら？	6	仮定法過去 接続詞	
1	総復習		6		
2	総復習		8		

教科名	外国語	科目名	英語活用	単位数	2単位
対象学年	第3学年(進学・キャリアコース ローカル)		履修形態	選択	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、世界の様々な文化や話題について興味を持ち、理解しようとする姿勢を育む。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな話題について書かれた英文を読み、その背景も含めて理解に努める。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学び、演習問題にも取り組むことによって応用力を身につける。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解している。 ・話の概要や要点を聞き取る技能を身につけている。 <p>(2) 思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じて、テーマについて必要な情報や概要を聞き取っている。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞こうとしている。 <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検確認テスト、 4回の定期考査</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。 5 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 6 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 				
教科書・教材等	<p>Amity II English Communication (開隆堂)</p> <p>Amity I English Logic and Expression (開隆堂)</p> <p>夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr. (アルク)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	Amity II (コミ) Lesson10	The Culture of Selfies	6	自撮り文化の始まりについて 関係代名詞 (制限用法・非制限用法)	
5	Lesson11	Finland	8	フィンランドと私たちの生活との関わり 関係副詞	
6	Lesson12	In Order to Live a Happy Life	8	社会で活躍し、幸せな人生を送るために必要なこと 仮定法	
7	READING	Cremona	8	バイオニリストのクレモナでの活躍	
8					
9	Amity I (論表) Lesson12 Lesson13	アイドル最高 備えあれば・・・	8	動名詞 不定詞①	
10	Lesson14 Lesson15	何に使うもの? あの子は誰?	8	不定詞② 分詞	
11	Lesson16 Lesson17 Lesson18	工場見学に行こう あの日の思い出 おすすめの旅行先	8	関係代名詞① 関係代名詞② 関係副詞	
12	Lesson19 Lesson20	もしも私が・・・ お出かけするなら?	6	仮定法過去 接続詞	
1	総復習		6		
2	総復習		8		

教科名	商業	科目名	ビジネス基礎	単位数	2単位
対象学年	第3学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>(1) 商業の学習ガイダンス 商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。</p> <p>(2) ビジネスとコミュニケーション ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや態度を身に付ける。 ロールプレイングでの実習を通して実践的なビジネスマナーを身に付ける。</p> <p>(3) 経済と流通の基礎 経済の仕組みに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 経済主体の役割や経済を支えるビジネスについて具体的に学び、その重要性について理解を深める。 我が国における経済の歴史について学ぶとともに現代のビジネスに関する現状について理解を深める。 流通に関する仕組みを理解し、現代市場における情報技術を活用した流通やマーケティングの意義について学ぶ。</p> <p>(4) 企業活動の基礎 企業の目的について学び、企業形態や経営組織の種類、特徴について理解を深める。 資金調達の方法や企業が納める税の種類、雇用形態の特徴、企業に求められる倫理に関する基礎的、基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(5) ビジネスと売買取引 売買取引の手順について学び、売買契約の意義や実践的な態度を身に付ける。代金決済の手段と特徴について理解を深め、適切な代金決済を行うための判断力を身に付ける。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 評価は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度などで総合的に評価する。</p>				
学習方法	教室で講義形式の授業を基本とするが、ロールプレイング形式での学習も行う。				
教科書・教材等	<p>ビジネス基礎 東京法令出版 ビジネスコミュニケーション検定テキスト 実教出版</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等		
4	商業の学習ガイダンス	ガイダンス	1	・商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。		
5	ビジネスとコミュニケーション	ビジネスに対する心構え	5	・ビジネスに対する望ましい心構えやビジネスにおける基本的なマナーを身に付ける。		
6		人間関係とコミュニケーション	5	・場面に応じたコミュニケーションの取り方やその意義を理解する。		
7	経済と流通の基礎	経済の基礎	2	・経済の基本的なしくみや考え方について学ぶ		
		ビジネスの発展	5	・経済活動のなかでのビジネスの意義や役割について学ぶ。経済環境の変化に対応する能力を養う。		
8	企業活動の基礎	流通活動とマーケティング	5	・流通にかかわるビジネスの種類を学び、その役割や仕事の内容について理解する。		
9					2	・企業の種類、経営組織、起業家精神などの企業経営の基礎知識を学ぶ。
10						
11	資金調達	5	・企業はどのように資金調達するのか。その方法と特徴について理解する。			
12	雇用	5	・雇用の形態について学ぶとともに、雇用に関して企業が負う責任について考える。			
1	ビジネスと売買取引	売買取引の方法	2	・売買契約や売買取引の流れなど、売買取引を行うための必要な知識を学ぶ。		
2		電子商取引と代金決済	3	・代金決済はどのようになされるかを理解する。		
3						

教科名	家庭	科目名	保育実践	単位数	2 単位
対象学年	第3学年（進学・キャリア 保育）		履修形態	必修	
科目の目標	保育を担う職業人として必要な子どもの様々な表現活動を促す具体的な技術を身に付けることができる。				
学習内容の概要	<p>1章 子どもの表現活動と保育 ①子どもの表現活動の面白さ ②造形表現活動 ③言語表現活動 ④音楽・身体表現活動 ⑤情報手段などを活用した活動</p> <p>2章 子育て支援と保育 ①子ども・子育ての問題 ②子育て支援のための各種施設 ③子育て支援の実際</p> <p>3章 保育の活動計画と実習 ①保育の活動計画</p> <p>※保育技術検定2級・1級 ○造形表現技術 ○言語表現技術 ○家庭看護技術 に挑戦する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①知識・技能 保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特 性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。</p> <p>②思考・表現・判断 子どもの様々な表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫し ている。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組む態度を身につけてい る。</p> <p>3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、 ノートの提出状況、保育技術検定の取り組み状況、観察の記録や実習の記録、自己評価。</p>				
学習方法	教科書の解説と、ワークシートを用いての問題演習等 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習 保育技術検定の過去問を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	「保育実践」（実教出版） 全国高等学校家庭科保育技術検定 実施要項				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況				
4	1. 子どもの表現活動と保育	<ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動 ・言語表現活動 ・音楽身体表現活動 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現活動に関わる技術の発達過程を理解する。 ・段階に応じた用具の使い方を理解する。 ・様々な素材を知り、どのような工夫ができるか考察する。 					
5			8						
6			※保育検定2級			<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ○言語表現技術 ○造形表現技術 ○家庭看護技術 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階にふさわしい絵本の選択ができ、それに応じた読み聞かせの技術を身につける。 ・発達段階に応じたおむつ交換ができる。 	
7			8						
8			8						
9			2. 子育て支援と保育			<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の意義と役割 ・子育て支援の実践 ・子どもの心の発達 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子育てを取り巻く環境を把握し、社会全体で支える必要性を理解する。 ・各種施設での保育の支援方法を知る。 ・世代を超えた交流や地域との連携・協働・情報収集などの必要性を考える。 	
10							8		
11							※保育検定1級		
12	6	<ul style="list-style-type: none"> ・包帯の種類、巻き方、三角巾の使用方法を理解する。 ・身近にある様々な素材を使って表現する 		6	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技術を習得し、平面構成ができる。 				
1	6								

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2 単位
対象学年	第3学年（進学・キャリア 栄養）		履修形態	必修	
科目の目標	様式別調理、大量調理などに関する知識と技術を習得させ、健康の維持・増進に寄与する。 食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>第3章 調理と献立</p> <p>4節 様式別の献立と調理・食卓作法</p> <p>①日本料理 ②西洋料理 ③中国料理 ④各料理のマナーと基本的なサービスの方法</p> <p>5節 食文化を見つめる</p> <p>6節 テーブルコーディネート</p> <p>①たのしい食卓をつくろう ②日本料理のテーブルコーディネート ③西洋料理のテーブルコーディネート</p> <p>第4節 調理実習</p> <p>家庭科技術検定 食物調理2級：日常食の献立と調理</p> <p>（年間2回：7月・2月の検定で2級取得を目標とする）</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、（関心・意欲・態度）、（思考・判断）、（技能・知識）とする。</p> <p>出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、実習に取り組む姿勢、態度、観察の記録、自己評価で総合的に評価する。</p> <p>実習時にはエプロン・三角巾を着用し、爪を短く切る。</p>				
学習方法	<p>食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を身に着ける。</p> <p>実習、検定を通して、衛生・献立作成・準備・基本的調理操作・片付けまで、実践に生かせる能力・技術を身につける。</p>				
教科書・教材等	「フードデザイン」 （教育図書）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	献立作成	食物検定2級	6	食物検定2級献立作成 (18歳男子の弁当 肉、焼き物指定)	
5	2級検定問題	食物検定2級過去問 学習	8	作成した献立に適した食品を選択し、食品の調理性を踏まえた適切な調理ができるようにする。 食品の栄養的特徴等を理解して、課題に応じた日常食の献立作成および調理ができる。	
6	食物調理検定2級試験	食物検定2級実習	8	個人個人が作成した献立をもとに、2級の調理実習(検定時間50分)を行う。 日常食、行事食などの調理に必要な知識と技術を習得する。	
7		検定	8	季節、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、目的に応じた献立作成ができるようにする。	
8					
9	様式別の献立と調理・食卓作法	①日本料理 ②西洋料理 ③中国料理 ④各料理のマナーと基本的なサービスの方法	8	食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境づくりができるようにし、食空間を演出する感性や表現力を養う。	
10			8		
11	テーブルコーディネート		8	食事を心豊かにおいしく食べるには、どのようにすればよいか知る。	
12			6		
1			6		
2	調理実習(通年)		6		

教科名	家庭	科目名	保育技術	単位数	2 単位
対象学年	第3学年（進学キャリア・保育）		履修形態	必修	
科目の目標	子どもにとって音楽とは、感動や感覚に訴えてくるものであることを理解し、身体を通して表現できる能力と態度を育てる。 保育検定2級・1級に挑戦し、資格取得を目指す。				
学習内容の概要	<p>※音楽・身体活動</p> <p>(1) 身体を使った表現 ア 手拍子によるリズム表現 イ ボディ・パーカッション</p> <p>(2) 子どものために作られた歌 ア わらべうた イ 唱歌 ウ 童謡 エ あそび歌</p> <p>※家庭科保育技術検定 ○音楽・リズム表現技術2級・1級 に挑戦する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①知識・技能 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや歌詞の特徴について理解するとともに、呼吸や発音の仕方、音楽の仕組みに気を付けて、声を合わせて歌ったり音楽をつくったりする技能を身に付ける。</p> <p>②思考・表現・判断 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 歌詞や曲の特徴を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。</p> <p>定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。</p>				
学習方法	教材を用いて、1人1台のピアノを使用し習熟度に合わせて個人練習を行う。 楽譜の読み方などの基礎的な知識と、歌唱力・リズム・音程・声量などの技術を総合的かつ実践的に学習する。				
教科書・教材等	バイエル 全国高等学校家庭科保育技術検定 要項				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	子どものために作られた歌	・歌唱 (童謡・わらべうた)	6	・子どもは、歌うことと身体を動かすことは切り離すことができないことを理解する。	
5	身体を使った表現	・リズム・アンサンブル (ボディ・パーカッション)	8	・身体を通して表現することが心身の調和のとれたリズムカルな動きを作るとともに創造力を育てるためにも大切であることを理解する。	
6	保育検定2級	・保育検定2級 ○音楽・リズム表現技術 ・ピアノ実技 ・筆記試験対策	8	・歌唱の基礎的な表現技術を検定する。 ・発声に無理がなく、正しい音程とリズム、で相手に歌いかける技術を身につける。	
7			8	・音楽に関する専門性を高めるための基礎知識を学びバイエル No. 48～No. 78 程度のピアノ演奏と童謡歌唱の表現技術を身につける	
8			8	・バイエル教則本を練習する。(2級検定課題)	
9			8	・弾く速さが安定維持でき、良いテンポで演奏できるようにする。	
10			8	・バイエル No. 48～No. 78 程度のピアノ演奏と童謡の弾き歌いによる表現技術を身につける	
11	保育検定1級	・ 保育検定1級 ○音楽・リズム表現技術	6	・歌詞を大切にして表情豊かに歌うことができる。 ・歌と伴奏のバランスがとれる。	
12			6		
1			6		
2					
3					

教科名	家庭	科目名	栄養	単位数	2単位
対象学年	第3学年(進学キャリア・栄養)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>栄養とは何かを理解し、機能と代謝、消化吸収のしくみを理解する。 ライフステージにあわせた献立作成の修得</p>				
学習内容の概要	<p>第1章 栄養とは 1節 私たちと栄養 2節 人体の構成成分と栄養素 第2章 栄養素の機能と代謝 1節 炭水化物 2節 脂質 3節 たんぱく質 4節 ビタミン 5節 ミネラル 6節 その他の成分 第3章 消化と吸収 1節 食欲 2節 消化と吸収のしくみ 第4章 エネルギー代謝と食事摂取基準 1節 エネルギー代謝 2節 食事摂取基準 第5章 栄養状態の評価 1節 栄養状態の評価と方法 2節 集団の栄養状態の評価 第6章 ライフステージ・ライフスタイルと栄養 1節 乳幼児の栄養 2節 青少年期の栄養 3節 成人期の栄養 4節 高齢期の栄養 5節 妊娠・授乳期の栄養 6節 労働・スポーツと栄養 第7章 病態と栄養 1節 栄養障害 2節 病態時の栄養 3節 食事療法 第8章 栄養と調理 1節 調理による栄養成分の変化 2節 調理と消化吸収率 3節 栄養面からみた望ましい献立 第9章 食生活の展望と健康増進 1節 日本人の栄養摂取 2節 食生活と健康増進</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は(関心・意欲・態度)(思考・判断・)(技能・表現)(知識・理解)とする。 ・具体的には、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、自己評価などで総合的に評価する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素を理解し、代謝・吸収の過程を理解する。 ・ライフステージにあわせた献立を作成することができる。 				
教科書・教材等	教科書「栄養」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況	
4	第1章	栄養とは	1節 栄養とは	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3大栄養素・5大栄養素を理解する。 ・ 人体と構成成分を理解する。 ・ 各種栄養素の種類を理解する。 ・ 栄養素の特徴と体内での働きを理解する。 ・ 栄養素の体内での消化・吸収の過程を理解する。 ・ 人間が食品を摂取することにより栄養をどのように取り入れていくかを理解する。 ・ 栄養バランスのよい食事とは何か。 ・ 栄養に偏りのある食事について改善計画を考える。 ・ 各ライフステージの年齢別・性別の栄養摂取量の把握。 ・ 栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる。 ・ 栄養障害とは何かを理解し、偏りのある食事について改善計画を立てる。 	
5	第2章	栄養の機能と代謝	2節 人体の構成成分と栄養素	4		
6	第3章	消化と吸収	1節 炭水化物 2節 脂質	4		
7	第4章	エネルギー代謝と食事摂取基準	3節 たんぱく質 4節 ビタミン 5節 ミネラル 6節 その他の成分	4		
9	第5章	栄養状態の評価	1節 食欲 2節 消化と吸収のしくみ	4		
10	第6章	ライフステージ・ライフスタイルと栄養	1節 エネルギー代謝 2節 食事摂取基準	4		
11	第7章	病態と栄養	1節 栄養状態の評価と方法 2節 集団の栄養状態の評価	4		
12	第8章	栄養と調理	1節 乳幼児期の栄養 2節 青少年期の栄養 3節 成人期の栄養 4節 高齢期の栄養	3		
1	第9章	食生活の展望と健康増進	5節 妊娠・授乳期の栄養 6節 労働・スポーツと栄養	3		
2			1節 栄養障害 2節 病態時の栄養 3節 食事療法			
			1節 調理による栄養成分の変化 2節 調理と消化吸収率 3節 栄養面から見た望ましい献立			
			1節 日本人の栄養摂取 2節 食生活と健康増進			

教科名	キャリア教育	科目名	BU(学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年(キャリアコース 就職)		履修形態	必修	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	<p>○一般教養</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学(言語分野が中心) 同意語、反意語、二語の関係、語句の意味、語句の用法、文章理解など 社会科学 歴史、地理、政治、経済、時事問題 自然科学(数的分野が中心) 小数・分数、四則演算、割合と比、金銭計算、推論、確率など <p>○郷土理解 鳥取県の地理、歴史、産業などについて理解を深める。</p> <p>○表現力 エッセイ(自らがテーマを設定し、小論文を作成し、発表をおこなう)</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ・・自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付けるために主体的に学び、理解しようとしているか</p> <p>②知識・理解 ・・一般教養や論理的思考力が身に付いたか</p> <p>③技能・表現 ・・習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。</p> <p>定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>①興味・関心を持って授業に取り組む。</p> <p>②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。</p>				
教科書・教材等	<p>○自主作成プリント</p> <p>○ワークシート ほか</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等		
4	一般教養（人文科学） ※特に言語分野	同意語	6	○日常生活の中で目にしたり、会話や文章の中で使用したりするような言葉の意味や用法などを正確に理解する。 ○評論文や小説の文章を正確に読み、味わう。 ○漢字の読み書きに関して、高校卒業レベルまでの理解を目指す。		
5		反意語 二語の関係 語句の意味 語句の用法 文章整序 文章理解	8			
6		漢字の読み 漢字の書き 思想・文化・歴史	8			
7			8			
8		一般教養（社会科学）	歴史		8	○時事問題にも気を配りながら、社会のしくみや社会参加の在り方について考える。
9			地理 政治 経済 時事問題			
10						
11	一般教養（自然科学） ※特に数的分野	四則演算 小数・分数 割合と比 損益計算 推論 図形	8	○基本的な計算力や論理的思考力を身に付ける		
12			8			
1	郷土理解	鳥取の地理 鳥取の歴史 鳥取の文化 鳥取の産業 鳥取の自然	6	○郷土である鳥取の特色を多様な角度から眺め、分析し、深く理解することで、郷土愛を深め、自らの生き方を見直すきっかけをつかむ		